

全 学 共 通 科 目
(旧 教 養 科 目)

「宗教概論」

1 年次 2 単位 指定必修 90分 半年間の講義。

文学、外国語、経済の 3 学部は前期、経営、法の 2 学部は後期に履修。

登録方法：A コースか B コースかどちらか一つを選んで登録する。

【講義概要】 （「履修案内」掲載原稿）

【講義内容】

A コース：

このコースは、キリスト教概論を学ぶ前に世界的な宗教について詳しく知りたい学生を対象として構成される。従ってまず、人生における宗教の意義・役割を説明し、神、すなわち超自然的存在者への憧憬が人間の本性に基づくものであることを明らかにし、世界の主要宗教がどのような信仰と救いについての見解を持っているかを紹介することが、講義の中心となる。なお、キリスト教概論への導入として、旧約聖書に基づいてイスラエルの宗教（ユダヤ教）の概要を取り上げ、キリスト教成立の宗教的・歴史的基盤をも考察する。

B コース：

このコースは、キリスト教概論を学ぶ前にキリスト教の基盤となっている旧約聖書と新約聖書について詳しく知りたい学生を対象として構成される。従ってまず、宗教一般について簡単に触れてから、次に古代イスラエルの宗教史を旧約聖書の成立と照らし合わせながら説明し、さらに新約聖書がどのような宗教的状況の中で生まれたのかを考察する。

【評価方法】

筆記試験、またはレポート。出席も重視。

【テキスト】

原則として『聖書（新・旧約）』を使用。担当者によって他のテキストを使用する場合もある。

「キリスト教概論」

2年次 2単位 選択必修 90分 半年間の講義。

登録方法：前期・後期とクラス（担当者）の両方とも選択して予備登録する。

第2希望、第3希望も登録する。

【講義内容】

この講義は、ミッション・スクールである南山大学で学ぶ学生が、人間のすべての文化的活動の根底にある宗教的ヒューマニズムを、キリスト教の観点から学ぶ機会となるように構成される。従って、キリストの中心的な教えを新約聖書に基づいて説明する。しかし、具体的な講義の内容は、各担当者の特徴を発揮したものとなる。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
00101 00113	キリスト教概論	必	2	各2	前期 後期	枝村 茂
他の科目との関連				他学科 履修		重複 履修 不可

【副題】 イエスの「神の国」の福音運動

【講義内容】

キリスト教の発端はナザレのイエスという一人物から始まった。したがってこのイエスについて知ることがキリスト教の信仰を理解する上で不可欠である。なぜこのイエスがキリストと呼ばれるにいたったのか、彼は何をしたのか、その身の上に何が起こったのかということを調べてみる必要がある。幸い彼の死後100年以内に成立した新約聖書を通してイエスの人物や言動についてかなりの資料を得ることができる。そこに描かれているイエスの姿は、信仰の目を通した像であり、歴史的でない要素が付加されている可能性は否定できない。しかしその信仰の目はイエスという歴史的人物の存在の本質にふれ、そこから彼の姿をとらえ描いているといえよう。福音書を主資料にナザレのイエスの「神の国」運動の真意、その使命感を解明する。

【講義計画】

1. イエスの神の国運動の背景
2. イスラエル史概説
3. イエスの神の国の特性、その内実
4. イエスによる例え話の救済的意義
5. イエスの救済的使命感
6. イエスとその弟子たち
7. イエスの受難・死
8. 復活信仰とキリスト教会の成立
9. ユダヤ教からの分離独立
10. キリスト教とヘレニズム文化との出会
11. 異端と正統信仰の確立
12. 世界宗教への歩み
13. キリスト教と現代

【評価方法】 出席状況および期末試験の結果を総合して評価する。

【テキスト】 聖書（新・旧），プリント

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00102	キリスト教概論	必	2	2	前期	五百旗頭博治
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 山上の説教をめぐる諸問題

【講義内容】 その現代的意義と手法の問題を視野に入れた上で、キリストの中心的な教えがそのなかに含まれると思われる「山上の説教」の中で、説かれている幾つかの教えと問題についての、なるべく正しい解釈に迫るつもりである。
必要に応じてアウグスチヌスやトマス・アクィナスの聖書解釈、それに自然法思想にも触れる。

【講義計画】 序論：聖書学の現代的成果に一瞥を加える
本論： 1. 心の貧しさと謙遜
2. 十戒の解釈
3. 愛の掟と教え、並びに黄金律
4. 富の所有と施与
5. 主の祈り

【評価方法】 筆記試験（自筆ノートのみ参照す）にする予定

【テキスト】 新共同訳「聖書」（特に「新約聖書」）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00103 00115	キリスト教概論	必	2	各2	前期 後期	熊 木 建 郎
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 イエス・キリストと福音書

【講義内容】 キリスト教の教理の説明とか、宗教としてのキリスト教の解説というよりも、イエス・キリストとその教えについて、『新約聖書』、とくに、いわゆる共観福音書がどのように伝えているかを学ぶ。
つまり、聖書の読み方に関する基礎的な知識の習得も、この講義の大切な要素である。その意味においても必ず役に立つ授業となることを願っている。

【講義計画】 授業回数が少ないので、各自が聖書の指定箇所を積極的に読んで味わうことがどうしても必要となる。
主として、「マルコ福音書」を読むが、「マタイ福音書」の中の“山上の説教”など有名な箇所にも触れる。
これらの箇所の正しい、批判的な読み方のために、現代聖書学の主要な方法論である様式史とか、編集史などの紹介も行う。

【評価方法】 授業内容に従った筆記試験を期末に行うが、それまでに、指定箇所の講読とか、各自の積極的な参加が期待されるレポートの提出を求めることもあり得る。

【テキスト】 『新約聖書』（新共同訳が望ましい）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00104 00116	キリスト教概論	必	2	各2	前期 後期	R. Szimpl
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 キリスト論

【講義内容】 本講義でイエス・キリストについて考えていく。新約聖書を読がら、イエス・キリストの生涯とその教え、またイエスに対する初代教会の信仰を考察していく。主なテーマとしては、福音書の成立、歴史的人物としてイエスの問題、受肉、山上の説教、受難、復活、イエスに対する初代教会の信仰の成立を取り上げ、キリストの教えとキリストへの信仰の基本的なところを解明する。

【講義計画】 本講義においては、下記の諸項目のもと、キリストの教えとキリストへの信仰の基本的なところを考えていく。

- I. 序論として歴史的な人物としてイエスと信仰の対象であるキリストの問題、福音書の成立、4福音のそれぞれの特徴について説明する。
- II. 本論として次の項目について考えていく。
 1. 福音書の誕生物語とイエスの「受肉」
 2. イエスの伝導活動と教え（山上の説教を中心に、ユダヤ教とイエスとの関係）
 3. 受難物語とイエスの死の意味
 4. 復活物語とイエスに対する信仰

【評価方法】 試験の結果を中心に評価するが、出席も重視する。

【テキスト】 新約聖書

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00105 00117	キリスト教概論	必	2	各2	前期 後期	鳥 巢 義 文
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 「キリストの福音と人間解放」

【講義内容】 キリスト教が我々に伝える使信の中心には、イエス・キリストと彼によって具体化された「神の国」と呼ばれる救いの出来事がある。本講義においては、福音書をひもときながら、この中心的使信を確認し、イエスの時代の問題と現代の状況を比較しつつ考えていく。

【講義計画】 下記の項目に従って展開する。

1. 福音書解釈上の手続きと諸問題
2. イエスの歴史的状況
3. イエスの思想とわざ
4. キリスト教信仰の成立

なお、講義中に聖書を使用するので、準備しておくように。

【評価方法】 筆記試験の結果および講義への参加姿勢などによる。

【テキスト】 聖書（旧約と新約を含むもの）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00106 00118	キリスト教概論	必	2	各2	前期 後期	石 脇 慶 總
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 横からのキリスト論

【講義内容】 ナザレのイエスと呼ばれた男が、どのようにして、キリスト教神学の「キリスト論」の主題となっていたか。初期キリスト教団の「信仰」の「展開」をできるだけ客観的に眺めていく。キリスト教の信仰を前提とはするが、一応これを括弧に入れ、実証的、歴史的研究の成果を踏まえながら、主として「カトリック教義神学」的観点から理論的な解明を試みる。以上によって、宗教的ヒューマニズムを、キリスト教の観点から学ぶ機会の一端を提供する。

【講義計画】 先ず、ナザレのイエスの歴史的等身大の実像をキリスト教の信仰を括弧に入れてできるだけ客観的に探求し、次いで、イエスの生前の主要な思想が何であったかを考える。最後に、このような史的人物が、どのようにして「キリスト論」の対象となったかを一瞥する。各授業時の後半で、受講者の質疑、見解を受け、それについて話し合う。

【評価方法】 発見内容、レポート若しくは、筆記試験におよび出席を総合的に評価する。データーの記憶度よりも、判断力の形成を重視する。

【テキスト】 配布する講義ノートおよび聖書

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00107 00119	キリスト教概論	必	2	各2	前 期 後 期	J. Schubert
他の科目 との関連				他学科 履 修	重 複 履 修	不可

【副 題】 現代人のための福音書

【講義内容】 この授業を通して、現代の人々にとってキリストの教えがどのような指針や価値観を与えようとしているかを多くの具体例をもって説明する予定です。

【講義計画】 最初の二回の講義を通じて、まずキリストの本質を旧約・新約聖書から解説し、イエズス・キリストの主張を積義的に分析した上で、以下のテーマで講座の本論に取り組みたいと考えています。

1. 人の子、神の子であるイエズス・キリスト (2回)
2. 神の国の到来を説く福音書のたとえ話 (2回)
3. 旧約の十戒と山上の垂訓の比較で見る愛の倫理 (3回)
4. 祈りによる人間形成 (1回)
5. キリスト教的美徳及び誰でも実践できる善行 (1回)
6. 戦争と平和に関するキリスト教的考え方 (1回)
7. イエズスの生涯を記念するキリスト教的祝日
(クリスマス、復活、聖霊降臨祭等)の社会的影響 (1回)
8. イエズス・キリストの遺言を受けた教会の活動 (1-2回)

* テーマ毎に、一枚のプリントをもって研究概要を示し、参考文献を提案し、研究課題を提示します。

【評価方法】 受講者の研究を促すために、学期中一回以上レポートを提出してもらいます。レポートのテーマは、毎回の授業にちなんだものから選択してもらいます。期末テストの成績と合わせて評価します。

【テキスト】 テキストとしては旧約・新約聖書を使用します。
図書館のキリスト教コーナーにレポート作成に適した参考書を用意しておきます。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00108 00120	キリスト教概論	必	2	各2	前 期 後 期	江 川 憲
他の科目 との関連				他学科 履 修	重 複 履 修	不可

【講義内容】 新約聖書の中で証言されているイエス・キリストの福音に着目し、それがどこから来て、どのように展開され、現代のキリスト教に到っているのかを見てゆく。

【講義計画】

1. 「福音」とは何か？
2. 「神の国」とは何か？
3. 「イエス・キリスト」の意味
4. 「十字架」の意味
5. 現代人にとっての意味

【評価方法】 レポート。出席も重視する。

【テキスト】 聖書（旧約・新約）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00109 00121	キリスト教概論	必	2	各2	前期 後期	W. Dunphy
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 福音書を読む

【講義内容】 福音書に書かれているイエス像から、史実としてのイエスを探りたい。

【講義計画】 1. 「神の国」の概念
2. イエスのたとえ話
3. イエスによる奇跡
4. 「山上の説教」について
5. イエスの誕生と復活
期間中にレポートを1回課す。

【評価方法】 出席、レポートおよび期末試験の結果を元に評価する。

【テキスト】 聖書

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00110 00122	キリスト教概論	必	2	各2	前期 後期	J. Seland
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 「キリスト論」

【講義内容】 イエスの生涯、人格並びにその他のテーマ：赦し、愛、祈り、喜び、イエスの弟子、イエスのたとえ話、イエスと罪人、イエスと身分の低い人、イエスと旧約聖書の十戒などについて考察する。

【講義計画】 上記のテーマについて、たとえ話を挙げながら解釈する。イエスの誕生から復活まで、ひとつひとつのエピソードをとって、それぞれの教えの意味を考えながら説明する。

【評価方法】 レポート1回（遠藤周作「イエスの生涯」を読んで）
試験1回

【テキスト】 新約聖書

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00111	キリスト教概論	必	2	2	前期	岡 崎 才 蔵
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 キリスト教の全体を系統的に捉えようとする時、その活動形態（教会）から把握するのが便利である。通常、キリスト教は東方教会と西方教会とに分けられ、西方教会は更にカトリック教会とプロテスタント教会とに分けられる。まず最初に、これら三教会の流れを歴史的に概観する。「イエス・キリスト」というのは、イエスはキリスト（救い主）であるという信仰告白が定式化されたものである。このような信仰を呼び起こしたナザレのイエスの生涯と教えを、次ぎに紹介する。最後に、カトリック教会の信仰形態とそこに生じた文化を紹介することによってキリスト教概論とした

い。

【講義計画】 講義内容で触れたように、全体を三部に分けて行う。

- 1)キリスト教の歴史
 - a) キリスト教の諸形態－カトリシズム
 - b) キリスト教の誕生と発展
 - c) キリスト教と日本
- 2)「イエスはキリストである」という信仰の成立
 - a) ナザレのイエス
 - b) イエスの教え
 - c) 復活信仰の成立
- 3)キリスト教と生活
 - a) キリスト教の祝日
 - b) キリスト教の典礼
 - c) キリスト教芸術

【評価方法】 授業出席態度と期末試験により評価を行う。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00112	キリスト教概論	必	2	2	前期	寺尾 總一郎
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 1. 新約聖書、特に福音書を通して、イエス・キリストの教えと行動を探り、なぜ、彼が神であると信じられるようになったのかを考える。
2. 現代社会において、そして現代的課題の中で、イエスを神と信じる者（クリスチャン）は、どのように生きるように説いているのか、おもにカトリック教会の指導者たちの教説を見ながら考える。

【講義計画】 1. 新約聖書、特に各福音書の編集過程について、現在の通説を概説。
2. イエスの教えと行動の基本原理や基本パターンについて、各福音書を比較検討。
3. イエスの時代に問題にならなかったような現代の問題（たとえば、体外受精や脳死などの生命倫理、社会制度、戦争と平和）に現代のキリスト教（特にカトリック）はどのように説いているのか概説。
4. 以上を扱う際、適宜、ビデオも教材として利用。

【評価方法】 1. この講義で扱ったことが、これからの人生の中でどういう位置付けになるのか、与えられた課題についてレポートを提出していただく。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00114	キリスト教概論	必	2	2	後期	五百旗頭博治
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 トマス・アクイナス『神学綱要』の研究

【講義内容】 キリスト論の古典的なものの代表の一つにトマスのそれがあるが、ここで彼の『神学綱要』（Comp.Theol.）の中から第二巻「キリストの人間性について」を取り上げて研究する。本書はトマスの忠実な秘書であったレイナルドゥスの求めに応じて師トマスが自らの神学の重要な点を手短かにまとめて与えたものである。トマスの「神学大全」はもとより彼の主著であるが、「綱要」には「大全」にみられない優れた面と叙述を幾つか持っている。

優れた古典に直接触れることがヒューマンイズムの育成に不可欠の要素であると考えた人（Allan Bloom他）は決して少なくない。我々は本書の研究を通じて全キリスト教的ヒューマンイズムを学ぶ。

【講義計画】 序論：トマスの生涯と思想

本論：キリストの人間性について

1. キリストの受肉——(1)人間性の回復の仕方
2. キリストの受肉——(2)キリストの心身の状態
3. キリストの受難と死
4. キリストの復活

【評価方法】 筆記試験（自筆のノートとテキストのみ参照す）を一応予定しているが、参加者の人数によっては別の方法も考えられよう。

【テキスト】 五百旗頭博治訳『トマス・アクイナスの神学綱要』（ラテン語からの抄訳）をプリントして配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00123	キリスト教概論	必	2	2	後期	E. Rucker
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 イエス・キリストという現象を歴史的にも宗教学的にも考究し、新約聖書に基づいて、イエスの価値観、イエスの神との親密な関係、イエスの死の特徴、イエスの復活、イエスによっての救いをメイン・ポイントとして論じ会う。

【講義計画】

- ①史的人物としてのイエス
- ②新約聖書の成立
- ③イエスの価値観（清貧、誠意、連帯感、非暴力）
- ④イエスによっての救い
- ⑤イエスの「アバ」（父なる神）
- ⑥イエスの死の特徴
- ⑦イエスの復活、歴史と信仰

【評価方法】

- ①筆記試験
- ②自発的な発表
- ③出席

【テキスト】 新約聖書（新共同訳、日本聖書協会）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00124 00125	キリスト教概論（再） 1・2	必	3・4	各2	前期 後期	石 橋 泰 助
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 本講義はイエス・キリストのメッセージの現代的な理解を新約聖書のテキストに基づいて考察する。

【講義計画】 本講義は、次のテーマに分けて考察される。

1. テーマ1：キリスト信仰の成立と聖書（3回）
2. テーマ2：イエス・キリストの活動と教え（4回）
3. 作文：キリスト教に関する疑問、質問、意見などの記述（1回）
4. テーマ3：現代の諸問題とキリストの教え（3～4回）
5. 質疑応答：3で提出された疑問や質問に答え、さらに質疑応答を行う（1回、ただし疑問、質問の数が多ければテーマ3の時間も使う）

【評価方法】 筆記試験。出席も重視。

【テキスト】 新約聖書

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00201 ） 00206	基礎体育 A	必	1	各1	前 期	岩 見 恒 典 三 浦 修 史 中 路 恭 平 寺 田 邦 昭 榎 本 鐘 司 松 岡 敏 恵 他
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 復 履 修 不可

【講義内容】 大学期は、運動不足や生活の不摂生が直ちに自己の体力や健康に影響することを、はじめて実感する時期であろう。高校までは、競技などの教材をとおして、主として発育発達の助長のためのプログラムが中心であったが、本学の基礎体育では、まずこれまでの体育・スポーツに対する認識を改めることが履修者に求められる。基礎体育は、体育・スポーツに対するパラダイムチェンジ、そして身体運動の意味の自覚を促し、自己の健康管理とスポーツライフを自らが創造しうる主体的な取り組みのためのプログラムである。

このうち、基礎体育 A では、本学のトレーニングルームやプールなどのスポーツ施設の使用法を熟知するため、施設の状況に基づいたプログラムが組まれる。そのなかで、体力診断、安全教育、スポーツのマイナス面の認識といった内容を加えつつ、トレーニングの科学、身体運動の科学にもとづいた、健康づくり・動きづくりの方法を、実践をとおして体得させるものである。

【講義計画】 1. コース選択制とする。各コースは複数の種目の組み合わせである。
2. 3～4 週を 1 種目としてローテーションし、3 種目をもって前期のコースとする。
3. コースにおける種目の組み合わせは、原則として、フィットネス種目（F）・個人スポーツ種目（I）・集団スポーツ種目（T）などの種目群と、屋外種目・屋内種目などの諸条件を考慮しておこなわれる。例えば、「A コース・水泳（F）／テニス（I）／バレーボール（T）」といったコースが開講される。
4. 要医療者のためのコースは別に設けられる。詳細は第 1 週のガイダンスで述べる。

【評価方法】 評価は出席を重視し、8 割の出席に満たない場合には、一律に不合格となる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
00251 ） 00256	基礎体育 B	必	1	各1	後 期	岩 見 恒 典 三 浦 修 史 中 路 恭 平 寺 田 邦 昭 榎 本 鐘 司 松 岡 敏 恵 他
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 復 履 修 不可

【講義内容】 ねらいについては基礎体育 A と同様である。
このうちとくに基礎体育 B では、健康・体力づくりに重点をおいた種目、生涯スポーツや運動技術学習に重点をおいた種目、社会的陶冶・スポーツコミュニケーションなどに重点をおいた種目など、それぞれの特徴をもったスポーツ教材のうち、1 種目を履修者に選択させて後期の授業をおこなう。この課程において、今後の自己の健康管理、また豊かなライフスタイルの一翼をになうべき生涯スポーツや教養を履修者に発見・習得させ、その日常生活への応用をはかるものである。

【講義計画】 1. 後期の第 1 週に種目選択を実施する。これに出席した履修者が種目選択上の第 1 の優先権を持つ。
2. 種目の選択にあたっての必要な情報は、後期第 1 週に別途用意する。
3. 開講予定の種目は時限によって異なるが、総じて次のようである。
フィットネス、エアロビクス、水泳、アーチェリー、ソフトボール、卓球、テニス、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、剣道、柔道
4. 要医療者のためのコースは別に設けられる。第 1 週の種目選択の際に申し出ること。

【評価方法】 評価は出席を重視し、8 割の出席に満たない場合には、一律に不合格となる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02003 02004	東西文化の比較 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	田 村 均
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 『菊と刀』の倫理学

【講義内容】 ルース・ベネディクト『菊と刀』で展開された日本人の倫理観の分析を手がかりにして、近代西欧の倫理思想と日本（東アジア）の倫理思想との比較検討を試みる。とくに、個人（individual）、意思（will）、自律（autonomy）、誠実（sincerity）、愛（love）といった倫理の基本概念が彼我においてどれほど根本的に食い違っているのか、ということ詳しく検討したい。

【講義計画】 (1)『菊と刀』の理解——日本人の倫理観の一つの分析
 ①『菊と刀』の概略
 ②『菊と刀』への誤解
 ③行為の自発性と応答性
 (2)ベネディクトの倫理観——コモン・センスとしての個人主義
 ①『菊と刀』の諸前提
 ②近代主義倫理の常識
 ③人類学と文化相対主義
 (3)西欧近代の倫理思想——近代（the modernity）というもの
 ①カント主義の個人概念
 ②功利主義の個人概念
 ③『菊と刀』のなかの日本人
 (4)むすび
 意思という概念について

【評価方法】 筆記試験による

【テキスト】 ルース・ベネディクト『菊と刀』 社会思想社 教養文庫
 伊藤整『近代日本人の発想の諸形式』 岩波書店 岩波文庫

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02007	フランス文化とフランス人	選・必	1～4	2	後期	倉 田 信 子
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 日仏文化の交流史

【講義内容】 明治維新前後の日本とフランスの交流の歴史を、日本がフランスから受けた文化的影響と、日本が与えた影響の両方から探る。

【講義計画】 ①岩倉遣欧使節、②パリ万国博覧会、③明治政府お雇いフランス人、④日本におけるフランス語教育の歴史、⑤求日フランス文化人たち、⑥渡仏した日本文化人たち、⑦印象派や、アール・ヌーヴォーに日本美術の及ぼした影響などを講じる。

【評価方法】 出席重視。拭きうちの小テスト数回。定期試験。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02009	国際社会と政治	選・必	1～4	2	前期	菊 池 努
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 「ポスト冷戦の国際関係」

【講義内容】 戦後の国際関係に大きな影響を及ぼしてきた冷戦が終わった。世界はいま、新しい時代の到来を待ちながら、巨大な変化を前に、混迷と模索の時期にある。日本もその例外ではない。
われわれは、目の前で起こっている国際関係の大きな地殻変動をどのように理解すればよいのであろうか。この講義では、3つの側面に焦点をあてて、今日の国際関係の諸問題を考えたい。すなわち、第一に、国際秩序の問題、第2に、戦後の国際経済の中心にあった自由貿易体制の問題、第3に、近年経済成長の著しいアジア太平洋の台頭が国際関係に及ぼす問題、である。
授業では、国際関係の長期的な傾向を把握し、それを理論的に分析することを通じて、将来を展望する手がかりにしようとするものである。なお、本講義は、いわゆる「時事的国際問題解説」ではない。国際関係を「理論的に考える」ための入門編である。念のため。

【講義計画】 1. 国際関係史からみた冷戦の終結の意味。何が変わり、何が変わらなかったのか。
2. 国際秩序をめぐる諸問題
民族の対立とは。核兵器の登場は国際政治をどのように変えたのか。なぜ、軍拡は起こるのか。「核の管理」とは何か。
3. 冷戦後の世界
(1)ヨーロッパの歴史と現実。ソ連の解体はヨーロッパにどのような影響を及ぼしたのか。ヨーロッパの統合はどのように進むのか。なぜドイツが注目されるのか。
(2)自由貿易とは何か。自由貿易はどのようにして維持されるのか。なぜ、経済摩擦が起こるのか。ヒト・モノ・カネの流れを管理することは可能なのだろうか。
(3)国家とは何か。国家の性格はどのように変化しつつあるのか。
(4)アメリカは「衰退」したのか。アメリカはどのような問題を抱えているのか。
(5)アジアはどのように発展してきたのか。アジアの発展は、この地域と世界にどのような問題を生み出しているのか。
4. 柔軟な政治的思考をもとめて

【評価方法】 定期試験の結果で評価。授業への出席状況も考慮する。

【テキスト】 テキストは特になし。参考文献は授業の際に紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02011	ロシア・東欧諸国の社会と文化	選・必	1～4	2	後期	家 本 博 一
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 スラヴ地域の社会と文化の理解——多様性のモザイク

【講義内容】 本講義では、ロシア、ウクライナ、東欧諸国などから構成されるスラヴ地域を対象として、主に歴史的な観点から社会と文化の理解を深めることを目的としている。本講義で言及する歴史時間は、ロシア帝国の成立（17世紀初め）から旧ソ連邦の消滅（1991年）であるが、講義の中心は、第一次世界大戦以降の時期となる。また、講義の進み方に合わせて、ビデオ教材、歴史地図、各種の文書や統計資料など視聴覚教材を活用して、受講生の理解を深めるよう配慮する。

【講義計画】 本講義で論じる課題は、以下の通りである。
1. スラヴ地域の統一性と多様性
2. スラヴ地域の「近代化」
* ロシア帝国・ビュートル一世（大帝）とエカチェリーナ二世
* ポーランド王国、チェコ（ボヘミア）王国
3. ゲルマン民族、オスマン・トルコ帝国との「接触」
4. 第一次世界大戦とスラヴ地域——ロシア帝国、ドイツ帝国、ハプスブルク帝国の消滅
5. 戦間期のスラヴ地域——再独立後の中欧諸国
6. 第二次世界大戦とスラヴ地域——連合国群と枢軸国群に分れた中欧諸国
7. 「スターリン時代」のスラヴ地域——「スターリン主義の嵐」
8. 社会主義体制下での東欧諸国——「乳牛に鞍」
9. 「1989年東欧革命」と「1991年ソ連邦の消滅」

【評価方法】 本講義の評価は、主として筆記形式による後期定期試験の結果に依拠する。

【テキスト】 参考文献
本講義が始まるまでに以下の文献を読まれることを希望する。

1. 家本博一著『ポーランド「脱社会主義」への道——体制内改革から体制転換へ』、名古屋大学出版会、1994年。
2. 倉持俊一・和田春樹編『ロシア史』（第2巻——18世紀～19世紀）、山川出版社、1994年。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02013 02014	科学と出会った日本１・２	選・必	1～4	各2	後期	小 林 博 司
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 日本の奇跡？それとも幸運？

【講義内容】 本講義では、幕末から明治にかけて本格的に科学技術に出会った日本を問題にしたい。非西洋において最初に科学技術の導入に成功した日本は、文明的に興味深い事例である。現在のように世界の先進国としての地位が確立してしまっている時代に生きるわれわれには、この問題は余りピンとくるものではないかも知れない。しかし、現在でも世界の各地で科学技術の導入を課題としている国はたくさん存在する。日本の科学技術の導入の特質を歴史的に振り返りつつ、一種の異文化接触として論じてみたい。

【講義計画】 まず幕末から明治にかけて日本が開国した時期の国際関係を概観し、当時の世界で科学技術が持っていた意味を考えてみたい。その上で日本が西洋の科学技術にどのように主体的に応答したかを検討する。その際に取り上げる問題としては、当時の西洋と日本の科学技術の差について、江戸時代の科学技術の特質、明治社会の対応などである。

なかでも明治社会の対応に関しては、政府が科学技術の人材養成にどの様に取り組んだか、科学技術の研究システムをどの様に立ちあげていったか、一般大衆に科学技術がどの様に浸透していったのかを検討したい。さらに時間が許せば、戦後の日本の科学技術研究の特質についても、諸外国との比較のもとで考察する予定である。

【評価方法】 定期試験を原則とするが、適宜小テストやアンケートを実施する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02015	翻訳に見る文化の相違	選・必	1～4	2	後期	岡 崎 才 蔵
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 国際化の時代にあつて、異文化の理解は欠かせない。文化ということばにはいろいろな意味や使い方があつるが、ここでいう文化は民族の「くせ」といった意味である。「くせ」というのは当の本人が気づいていないことに面白さと問題がある。

翻訳行為というのは、A言語システムからB言語システムにうつし（移し・写し・映し）換える作業である。A言語システムとB言語システムとの記号が一对一の完全にして、完全な置き換えが可能であれば問題はないのであるが、あいにく自然言語にはそのような対応はない。翻訳の問題が生じる所似である。聖書の歴史は翻訳の問題の歴史といえる。聖書が翻訳される時に生じた「うつし」の問題を文化的相違という面から紹介して、現代社会の異文化理解の一助になればと考える。

【講義計画】

- I. 総論
 - 1) 翻訳について
 - a. ことばと文化
 - b. 言語について
 - c. 翻訳について
 - 2) 聖書の翻訳について
 - a. 聖書解釈と翻訳
 - b. 聖書の古代訳
 - c. 聖書の近代訳と現代訳
- II. 各論
 - 3) 旧約聖書から
 - a. 名前の付け方
 - b. 禁断の実、その他

- c. 旧約聖書の外来語
4)新約聖書から
a. 聖母マリア
b. 真福八端
c. 新約聖書の外来語

【評価方法】 学期中に一つの課題を課して、レポートの提出を求める。学期末に筆記試験を行う。それらの成績結果に、授業参加態度を勘案して成績を出す。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02017	日本の教育・世界の教育	選・必	1～4	2	前期	酒 井 朗
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 日本の学校・世界の学校

【講義内容】 みなさんは高校までの12年間の学校教育をどこでどんなふうに受けてきたでしょうか。おそらく多くの人は、日本国内の、それも東海3県の学校に通ってきたことだろう。だが、それにも関わらず、我々はともすればその限定された学校教育のあり方を「当たり前」のこととして考えてしまいがちである。そこで、この講義では、そうした「当たり前」と考えてきた我々のおかれた状況を相対化するために、日本の教育と諸外国の教育を比較社会的な観点から検討してみたい。我々の受けてきた教育は、さまざまな可能性の中の1つにすぎないこと。そしてその選択肢へと導いたのは日本のおかれた歴史的、社会的な社会状況の推移であったことを理解することがこの講義のねらいである。

【講義計画】 具体的には、学校教育をめぐる以下のような諸側面をとりあげていく。講義は受講者の発言を取り入れながら進めていく。

- *幼稚園教諭の比較 ; 幼稚園って何をするとところなの？
- *小学校教育の比較 ; 日本の教師が編み出した独特の指導方法とは？
- *中等教育の発展過程 ; 効率と平等の間で
- *高校教育の比較 ; 大学の役割とは？
- *学歴主義 ; どうして日本では受験戦争が激しいの？
- *葛藤の諸相 ; 教育をめぐる民族対立、マイノリティ問題
- *外から見た日本の教育 ; 日本の教育はどう見られているのか
- *世界宗教としての教育 ; 教育への情熱の広まり

【評価方法】 以下の4点を加味して総合的に評価する。
1)出席状況 2)レポート 3)期末試験 4)授業への参加状況

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02019	英米の社会と文学 1	選・必	1～4	2	前期	荻 野 昌 利
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 「近代イギリス文学と都市」

【講義内容】 18世紀後半からの産業革命の進行に伴い、イギリスの急速な都市化が進み、ロンドンを初めとして、数多くの大都市が各地に出現した。このような都市化が人心にどのような影響を及ぼすか。それを19世紀の代表的作家（例えばチャールズ・ディケンズなど）を取り上げ、具体的に解説してみたい。そこに現代の私たちのかかえる自己疎外や孤独、欲求不満など、さまざまな問題を考察する恰好の手がかりが見出せるように思える。

【評価方法】 筆記試験を期末に行う。

【テキスト】 プリントを随時配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02020	英米の社会と文学 2	選・必	1～4	2	後期	荻野昌利
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「世紀末芸術の現代的意味」

【講義内容】 19世紀末のいわゆる「世紀末芸術」（たとえばイギリスのワイルド、ビアズリー フランスのモロー、ユイスマンズ等）のもつ諸特徴を考察し、改めて現在もうひとつの世紀末のただ中に置かれているわれわれの現状と比較することで、そこから現代文明を見る新たな視点が形成されることを願っている。現代われわれがかかえている数多くの問題が、過去によく似た現象と比較照合されることにより、近代文明の歴史的必然として理解されるはずである。

【評価方法】 筆記試験（期末）により評価する。

【テキスト】 プリントを随時配布する。ヴィジュアルな資料も必要に応じて使用する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02021 02022	ヨーロッパと非ヨーロッパのスポーツ 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	榎本鐘司
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 概念としてのスポーツは、中世ヨーロッパの王が楽しんだ狩猟からはじまる。楽しみとしての狩りという、非日常的な営みを、きわめて組織的に行いえたことにおいて、それは即興的な娯楽と区別しうる。そして、「ヨーロッパにおけるスポーツ」とは、この概念としてのスポーツのパラダイムにおいて近代に成立した、近代スポーツのことに他ならない。

「非ヨーロッパのスポーツ」とは、歴史としてのスポーツ、あるいは民族としてのスポーツなどと言い換えることができるだろう。ここでは、近代スポーツにおいて捨て去られた部分にスポットをあてて考えてみたい。古代ギリシアの競技や中世のテニス、現在よく話題にのぼるエスニック・スポーツやニュー・スポーツ、そして日本のスポーツなどを取り上げることによって、近代スポーツからはかきまみることのできない、より全体的なスポーツ像がうかびあがってくるだろう。また、近代オリンピックの現在の動向を儀礼化の視点などからも考えてみたいと計画している。

【評価方法】 定期試験に加えて、1回のレポートを課して評価します。

【テキスト】 きまったテキストはない。そのつど紹介する。ただし、参考書として、稲垣正浩著『スポーツを読む』Ⅰ～Ⅲ（三省堂選書）をあげておきたい。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02023 02024	東南アジアの政治論 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	明石陽至
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 本講座は東南アジア諸国連合（ASEAN）の国々の政治形態を比較しながら、各国の抱える諸問題（例えば人種問題、人権、開発）を研究し、この地域の文化の多様性を考察する。

同時に、ASEAN諸国と関係の深い国々（日本、中国、アメリカ）との外交政策の展開についても分析を試みる。

【講義計画】 本講座は入門講座であるので、基本的には講義予定表に従って講義を行うが、特定の関連ある出来事が発生した場合、随時その問題を取り上げて討論を行う。そのために、各自は毎日新聞、T V ニュース等に注意すること。

- 【評価方法】 1. 試験（1回ないし2回）
2. クラス内での質疑応答の参加度
3. 出席

【テキスト】 もっと知りたいシリーズ（東南アジア）
弘文堂

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02025 02026	名前の文化史1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	岡 地 稔
他の科目 との関連				他学科 履 修	重 複 履 修	不可

【講義内容】 「大帝」「肥満王」「征服王」「倨傲公」「獅子公」…。ヨーロッパ中世においては多くの君侯がこのような渾名でよばれる。なぜであろうか。「カロリング家のカール＝マルテル」さんのフルネームは「カール＝マルテル＝カロリング」なのか。またフランス革命で処刑されたルイ16世の父の名はルイで、その父の名もルイ（15世）で、その父の名もルイで、その父の名もルイ（14世）で、その父の名もルイ（13世）であった。一族内で累々と続く同名。ルイはルイをよぶこうした類は、中世においてはよく見うけられた。なぜであろうか。我々の身近にありすぎて、あらためて意識されることの少ない名前。名前に関わる種々の問題を通して、既知と思われるヨーロッパの歴史や社会の側面を考察していきたい。

【講義計画】 序 渾名の宝庫：ヨーロッパ中世

I 渾名でよぶ世界

- ①渾名の類型、渾名の生成時期
- ②渾名をつけることの背景
- ③補説 人物の書き分け、および比定の困難さ
- ④名前の構造、および姓の誕生
- ⑤命名方法、およびその背景
- ⑥補説 命名のエピソード

II 中世貴族の社会構造と名前

——貴族集団のアイデンティティーの問題——

- ⑦「貴族」とはなにか
- ⑧貴族の親族集団をめぐる問題状況
- ⑨貴族の社会構造と名前
- ⑩中世貴族の名前とその後

【評価方法】 試験、および出席状況から評価

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02027	可能性の鏡	選・必	1～4	2	前期	山 田 隆 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	重 複 履 修	不可

【講義内容】 文化人類学は異民族文化を人間に可能ないくつかのやり方の中から一つを選択採用した結果とみなし、従って異民族文化同士は互いに別の可能なやり方を互いの代りに映しだしており、比較を通して互いの特徴と限界を明らかにする鏡の意義をもつと考える。講義は、文化人類学のこの考えから異民族文化の具体的事例を説明することを内容とする。

【講義計画】 はじめに異民族文化の具体的事例を提供し、次にその資料のもつ意義を上記の視点から考えるやり方で進める。全体をカバーする適切な参考書はないからテキストは使用しない。代わりに要点を板書し、ノートさせる。提供した資料をどう考えてゆくかが講義の中心になるから板書部分が多くなる。また話は一つのテーマについての2～3回の話の積み重ねになるから、前の話を聞いていないと後の話は分からなくなる。予定している主なテーマは次の通り：
異文化からの人間の理解、生活の実験、成人へのドラマ、配偶者選択のルール、父性の問題、母系

社会、血筋と社会的地位、単性的・逆性的気質……。

【評価方法】 講義の目的は文化人類学の考え方を理解させる点にあるから、提供した資料をもとに試験時間内に小論文をまとめる試験を行ない、まとめ方にポイントを置いた評価をする。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02029	共存の条件	選・必	1～4	2	後期	山 田 隆 治
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 国際化が避けられない世界的状況にあって、異民族文化間の共存は知的レベルでも実践的レベルでも現在の最大の問題をなすが、人類はこの問題についてもいろいろないわば実験を試みている。主として「他者」についての考え方に関する異民族文化の具体例を紹介し、我々の場合と比較しながら共存の前提になる条件のいくつかを考える。

【講義計画】 異民族文化に関する具体的資料の提供と、共存の視点からのその解釈という二段構えの講義を行なう。資料についての考え方が話のポイントになり、その点に合う参考書はないので、要点を板書し、ノートさせる。毎回具体的テーマを上げて話をするが、予定している主なテーマは次の通り：古き良き時代、進歩発展、異質的他人、同質的他人、異人としての他者、イメージとしての外国、接触回避の行動、均衡維持の原理、対立的思考、流動的思考……。

【評価方法】 講義で使用した資料にもとづく小論文形式の試験を行ない、まとめ方にポイントをおいて評価を行なう。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02031	「インディオも人間」です	選・必	1～4	2	前期	佐 藤 信 行
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 他者認識とは

【講義内容】 コロンブスのアメリカ発見から30年後の1522年には、先住民のアステカ王国が、1533年にはインカ帝国が共にスペイン軍の銃火と兵馬の前に屈した。膨大な金銀財宝の戦利品は本国の王宮と教会を飾った。インディオは土地を追われ、征服者達に分配され、奴隷に等しい境遇のもとで苦しんだ。ドミニコ会修士のラス・カサスの助力で、ローマ教皇パウロ三世の教書Sublimis Dei (1537)によって「インディオは人間である」と宣言された後も、勝者の偏見・蔑視は断えることなく今日に至っている。この間の変遷の跡をethnohistoryと現地のフィールド・ワークの知見を素材にして検討していく。

【評価方法】 筆記試験による。

【テキスト】 参考文献は講義中に逐次教示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02033	「出会い」の栄光と悲哀	選・必	1～4	2	後期	佐 藤 信 行
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「偶像崇拜」根絶運動をめぐる

【講義内容】 人類学の対象社会は常に異文化を内包する他者文化であり、自文化の対比で浮上する「差異」の

存在を、観察者自信のもつ価値体系からいかに自由な立場で記述し、解釈しうるかに方法論的課題が集約される。したがって「異文化理解」といった耳触りのよいお題目の中身は依然として不透明のままである。本講では武力征服による不幸な出会いとしての勝者側のスペインの「栄光」と敗者側に立つ先住民インディオの「悲哀」の只中での征服宗教の当初の布教の実態に迫りながら、植民地政策の大綱が固まった第五代副王トレド時代にも焦点を当てる。偶像崇拜根絶運動と集住化政策がアンデス住民の伝統村落共同体のアイリュと祖先祭祀に与えた打撃についても細述する。

【評価方法】 筆記試験。

【テキスト】 参考文献は講義中に教示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02035	インドネシア慣習法の発見	選・必	1～4	2	前期	倉 田 勇
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【講義内容】 大航海時代、世界各地の島々の発見があり、西葡につづき英仏蘭などの西洋人たちは異文化をもつ人々との接触・出会いがあった。現在のインドネシアに到来したオランダ人たちは同地域の文化の理解にどのように取組み理解したか。つまり誤解から試行錯誤して、“東洋人としての法”としてのインドネシア文化（慣習法）をどう見出したのかを講義してみたい。西欧の法ではなく東洋人の法（慣習）を見い出す経過を語ることによって、法を通じた人間文化の理解を目指す法人類が内容である。

【講義計画】 講義の筋はC.van Vollenhovenの「慣習法の発見」（1928）が中心であるが、インドネシアの文化人類学者Koentjaraningrat：Anthropolog in Indonesia、第5章 The Study of Adat-Law in Indonesia（1975）などを参考にしていく。
A. 西洋法のおしつけ、B. 慣習法の発見、
C. C.van Vollenhovenの方法論、D. 協力者のF.D.E.van Ossenbraggen、E. 背後の世界観など、

【評価方法】 レポート重視。3回感想と意見を書く。

【テキスト】 <参考文献> もっと知りたいインドネシア（弘文堂1995）、法と政治の人類学（朝倉書店1987）、馬淵東一著作集（第三巻）（社会思想社1974）など

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02037	慣習・社会・世界観	選・必	1～4	2	後期	倉 田 勇
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【講義内容】 どんな民族にも社会にも生活文化に対する基本的な物の見方、考え方がある。これは一つの世界観であるといえるであろう。

人間は社会的動物であるというが、何もかも慣習化して次世代に伝えている。こうした側面をバリ島民や日本（沖縄）の具体的事例に基づいて、空間・時間・食物などについて説明し文化の多様性に言及する。自分のもつ常識は他者にとっては常識ではないのである。

【講義計画】 人間はどのように空間を意味づけるかを地形・風・太陽などからその場の意味を探ってみるが、これは中国伝来の風水思想でなくあくまでも1つの地域の人々の考えについて触れる。次に暦といえば西暦、時間といえば時計時間を考えがらだが、これらを取り除いたら……人間の文化が見えてくる。また外部者にとっては「名物にうまいものなし」とされている。食物観は社会や文化によって異なっている。何か考えられるように話したいが講義はノート形式であり、各自の体験から引き出すことを考えている。

【評価方法】 4回感想を書いてもらう。平常のあり方を重んじていく。試験も行う。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02041	自由貿易と経済摩擦	選・必	1～4	2	前期	渡 邊 頼 純
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 貿易摩擦とWTO（世界貿易機関）

【講義内容】 GATT（ガット＝関税貿易一般協定）に代わって1995年1月から発足したWTO（世界貿易機関）の役割りと貿易上の紛争処理のメカニズムを学習する。

【講義計画】

	テ	マ
第1回	外国貿易と国内経済 ― なぜ国際貿易は重要なのか	
第2回	1929年大恐慌と第2次世界大戦 ― 戦争に至る要因としての保護主義	
第3回	戦後国際経済秩序の構築 ― ブレトン・ウッズ会議と米国のイニシアティヴ	
第4回	「国際貿易機構」（ITO）創設の構想 ― 夢と消えた自由貿易の守護神	
第5回	ガット（GATT＝関税貿易一般協定）の誕生 ― 貿易における自由主義と無差別主義	
第6回	交渉フォーラムとしてのガット ― ケネディー・ラウンドと東京ラウンド	
第7回	ウルグアイ・ラウンド交渉を振り返って① ― 市場アクセスの改善とルールの強化	
第8回	〃	② ― サービス・知的財産権・投資のルールづくり
第9回	〃	③ ― 紛争処理機能の強化
第10回	環境と貿易 ― 環境保全と貿易自由化の諸問題	
第11回	21世紀の国際貿易秩序と日本の対応 ― 歴史に残る自由貿易国家日本への道	

【評価方法】 学期末に筆記試験を実施する。

【テキスト】 高瀬保編著『ガットとウルグアイ・ラウンド』
東洋経済新報社 1993年12月

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02101 } 02104	生物と適応1・2・3・4	選・必	1～4	各2	前期 後期	阿 江 茂
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 地球の環境はそこに住む生物を生ぜしめた。そして生物はその地球の環境に適応して進化を続け、今日の多様な生物の世界が出現した。この姿を生物と適応（adaptation）と言う面より広く考察する。具体的には常に人間自身のことを考えつつ、人以外の生物の代表として、私の研究材料としている世界のアゲハチョウの仲間を中心とし、蝶が自然の中でどのように生き、適応しているか、また、人の自然改造にどのように適応しているのかを論じながら講義を進める。

【講義計画】

1. ナミアゲハの生活、都市への適応
2. クロアゲハの生活、モンスーン帯への適応
3. 明るい色彩のアゲハ群と黒い色彩のアゲハ群、草原と森への適応、森の中の人の道と蝶の道
4. オナガアゲハとシロオビアゲハの擬態、分布地での生残り戦略
5. 人がふやしている木とともにふえるモンキアゲハ、南米のアゲハ群
6. ギフチョウ群とたきぎとりと炭焼きの林、疎林
7. さて、生命とは、生物とは
8. 生きている化学分子、遺伝子、DNA
9. 生物の適応に対する遺伝子の働き
10. 擬態の遺伝子はどのようにして生じたか、アフリカのオスジロアゲハ
11. 霊長目の進化の歴史、樹上生活へ、再び地上へ、直立歩行への適応
12. 人類の将来、人はこれだけの数にふえてしまったとはいえ、共に生きる道を求め、他の生物との共生を求めて、自然に返らねばならない。

【評価方法】 文系中の理系のため出席重視。試験は教科書、プリント、手書のノートを用いて試験場でレポートを書く。

【テキスト】 教科書「アゲハチョウの生物学」自著であるので教室で分譲、上級生にもらっても可。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02105 } 02108	自然環境と生物 1・2・3・4	選・必	1～4	各2	前期 後期	江 田 信 豊
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 私たちを取り巻く地球環境は現在刻々と変化しており、21世紀までには地球の平均気温は3℃上昇し、生物を紫外線から守るオゾン層の濃度が減少するといわれています。また、全地球の大気循環や水収支に影響を及ぼし、野生動物の宝庫である熱帯林が破壊され、熱帯林の消失と貴重な動植物が地球上から一日と消えていっています。さらに、全世界の森林や都市が酸性雨の被害を受けており、貴重な文化遺産である建造物や彫刻が無残な姿になってきています。このようなマスメディアの報告はここ数年多くなってきており、私たちの乗る宇宙船「地球号」の環境悪化による危機化が叫ばれています。私たちはこれらの問題を必ずしも身近な問題と考えてはいませんし、安易な環境保護運動だけでは問題は解決しません。私たちの子供の時代になってチョウやトンボやカブトムシの見られない時代が確実に迫ってきているのかも知れません。

この講義では、前半に地球環境のしくみを生態学的にとらえ、我々を取り巻く地球の自然環境についての基礎知識を理解します。そして、その上につけて後半では現在問題にされている地球の温暖化や酸性雨の問題、ゴミ問題、地球上から消えゆく熱帯林やその環境に依存している動植物の減少を今日の目度とらえそれぞれの問題点について考えていきます。

- 【講義計画】
1. 導入 生態学概念
 2. 生態系の構造
地球規模での生産と分解
 3. 生態システムのエネルギー
生産力の概念、食物連鎖
 4. 生物地球化学的循環
窒素の循環、硫黄の循環
 5. 生物地球化学的循環
二酸化炭素と水の地球規模での循環
 6. 生態系の遷移と進化
 7. オゾン層の破壊
 8. 地球の温暖化と異常気象
 9. 酸性雨と砂漠化
 10. 廃棄物
ゴミとリサイクル
 11. 熱帯林の減少
 12. 消えていく動物たち

【評価方法】 レポートを原則とします。

【テキスト】 槌田敦『環境保護運動はどこが間違っているのか？』宝島社、他にプリント等の配布もおこないます。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02109	環境問題の政治経済学	選・必	1～4	2	後期	水 谷 重 秋
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 本講義は、近年世界的に大きな問題となっている環境問題を政治経済学的な観点から考察する。実際の講義では、
①まず「環境問題は足元から」という基本原則にしたがって身近な環境問題をいくつか取り上げ、

- それらの原因と対策を検討する（この部分に関しては、昨年の「総合科目Ⅰ〔生命と環境〕」の小生担当箇所と一部重複する）。
- ②次いで環境問題一般の政治経済学的な考察を行う。

【講義計画】 環境問題には日々刻々と変化する部分があるので、その都度最新の資料を紹介しつつ講義を行う。時に小テストを実施する。

【評価方法】 講義期間中に行われる小テストと期末の筆記試験をあわせ考慮して評価する。

【テキスト】 共通のテキストは指定しないが、下記の文献が参考になるであろう（その他の文献については、講義のなかで紹介する）：
植田和弘ほか『環境経済学』（有斐閣、1991年）
宮本憲一『環境経済学』（岩波書店、1989年）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02111 02112	人間の発達と環境 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	伊藤美奈子
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 人間の発達と環境との相互作用

【講義内容】 人間の発達と環境との相互作用について、いくつかの観点にしばって考えていく。ただし、この「環境」が意味するものは多岐にわたっており、視点のあて方によってさまざまである。そこで本講では、この「環境」を、「社会、学校、家族、友人」ととらえる視点から、これらの環境諸要因と発達との関連を検討する。

【講義計画】 本講では体系的な理論の修得よりも、随時取り上げたトピックの中から各自が関心を持ったテーマを自分なりに考えていけるよう、身近で具体的な内容を心がけたい。講義は以下の項目で行う予定である。

- ①対人関係と発達…親子関係・友人関係・学校や職場での人間関係など、各発達段階における対人関係が持つ意義と問題について。
- ②家族との関わりからみた個人のライフサイクル。
- ③発達と社会的環境要因…家族・学校・社会の諸問題と病理について。
- ④職業（キャリア）発達…青年期以降の職業選択と社会参加、職場適応、転職願望の問題。
- ⑤社会学的観点からみた青年期…現代青年の特徴とされるいくつかのトピック（ナルシシズム、ふれあい恐怖、やさしさ志向、占いと新宗教など）を紹介。これらのテーマに関する情報提供の後、全体討議を行ない、それぞれの問題への考察を深める。

【評価方法】 学期末に試験を行なう。また、テーマごとに全体討論あるいはレポート等で各自の意見を求めることもある。それらを総合的に判定して評価としたい。出席は重視する予定である。

【テキスト】 随時プリント等を用意し、それに沿って講義する。ただし、参考文献などを紹介、使用することもある。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02113	人間とその生活世界	選・必	1～4	2	前期	立松弘孝
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 生物学者ユキスキュルによれば、あらゆる種類の動物にとって同一の事物とか同一の実存世界というようなものは存在せず、動物の種類と同じ数の、それぞれ異なる意味と形態をもつ世界がある。例えば人間と蠅の生活世界ないし環境世界は全く異なっている。後者には本や机がないばかりか、入江や峠もない。本や机は無論のこと、入江や峠でさえ単なる物理的存在ではなく、むしろわれわれの生活との関わりによって特殊な意味と特定の名称を与えられた、いわば文化的な存在でもある。われわれ人間は、外界からの物理的刺激にただ単に本能的・受動的に反応して生きているのではなく、自分たちの利害・関心に即して生活世界内の諸事物や事件にさまざまな意味と名前を与え、そ

れらを活用あるいは排除しながら、各自の理想や目的を目指して生きる主体的・能動的な存在者である。それゆえ人間の生活世界は何よりもまず「意味の世界、シンボルの世界」であり、各自の生活世界にいかなる意味と秩序を与えているのかという、まさにこの点に人間の自由と尊厳が表現されるのである。

【講義計画】 この講義では以上のような観点から、①諸対象に意味を与える意識の構造と機能は何か、②意味またはシンボルとは何か、③動物の環境世界と人間のそれとの違いは何か、等々の諸問題について考察する。ぜひ読んでほしい文献は講義の中で紹介する。また特に重要な論点については参考資料として印刷・配布する予定。

【評価方法】 成績評価は主に筆記試験によって行なうが、出席率や授業中の質疑応答も重視する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02115 02116	進化論と人間 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	横 山 輝 雄
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 ダーウィンから現代までの進化論と人間の問題

【講義内容】 ダーウィンの『種の起源』が出版されて以降、進化論と人間の問題についてさまざまな議論が欧米でも日本や中国でも行なわれてきた。人間も生物の一種であるとする観点と、人間は他の動物のもっていない理性的・道徳的能力をもっているとする観点の対立があり、さらに同一の進化理論が欧米とアジアで大きく違った受容のされ方をするという比較文化・比較思想的に興味深い問題もあり、講義ではそうした事柄の理解を目指す。

【講義計画】 上述の目標に向けて、まず最初にダーウィンの進化論が何であるかについて、同時代及び現代の常識的な理解と対比する形で明らかにする。「生存競争」「自然淘汰」などの用語は、自然科学以外の領域でも使われているが、その多くは日常的なイメージを投影したものであり、ダーウィンの進化論とも現代進化論とも違っている。

次に、ダーウィン以降の欧米における進化論の展開を、特に人間論との関係から検討し、社会思想、宗教思想などとの交渉を中心として、現代の社会生物学論争にいたるまでを概観する。

そして、同じ問題が日本や中国などのアジアにおいていかに違った形で議論されてきたかをとりあげて、比較文化・比較思想的な観点からその意義について考察する。

【評価方法】 主として定期試験（筆答）による。

【テキスト】 松永俊男著『近代進化論の成り立ち・ダーウィンから現代まで』（創元社）、他にプリントの配布等を行なう。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02117 02118	生活環境における毒性 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	山 本 正 康
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 我々はさまざまな環境の中で生活している。その中には必需物質もあれば有害なものもある。この環境の中で、まず毒性とはなにかを考え、その上にたって有害物質、すなわち具体的な毒物について考えてみる。

毒性には一般的な急性毒や慢性毒ばかりでなく、発がん性の問題や次世代に影響する催奇形性の毒性もある。そのほか、タバコや麻薬のように依存性の問題も一種の毒性と考えてよい。さらに、我々人間が生活し、活動する事により自然環境を破壊し、また有害物質を作り出している場合がある。これら環境汚染についても概説する。

つぎに、具体的な毒物については、まず、最も身近なさまざまな動物の持っている自然毒およびキノコやかび等を含む植物に存在する自然毒について講義する。これは医薬品など有効利用されているものもある。さらに、依存性物質すなわち麻薬、覚醒剤、アルコール、シンナー等について述べる。

環境汚染物質については、燃焼による大気汚染物質、生活および産業による水質や土壌汚染など

を解説し、さらに、酸性雨やフロンなど間接的環境汚染の毒性物質についても言及する。

【講義計画】 最初の3回程度で毒性の概論をおこなう。つぎの5回は動物性および植物性自然毒について講述する。つづいて、2回ほど発がん性物質および依存性物質を解説し、残り4回は環境汚染の問題を考えてみる。

【評価方法】 主として筆記試験で評価する。また、出席も加味する。

【テキスト】 特に用いない。必要に応じてプリントを配布する。
参考図書は講義の中で紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02119 02120	海洋環境と生物1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	濱 順 子
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 私達が普段直に覗き見ることのない海洋は、地球の約70%もの面積を占める広大な世界です。この講義では海洋の生態系に生きる多様な生物達の姿を紹介するとともに、この生態系を支えている、肉眼で見ることのできない微小な藻類―植物プランクトンの光合成生産の姿についてお話します。また水をめぐる地球環境問題に触れ、私達人間にとって不可欠である水の重要性を再認識することを目指します。

講義の中には時に細部にわたる専門的な話も盛り込みたいと考えていますが、講義を受ける皆さんには細部の理解よりむしろ重要な大筋をつかんでいただきたいと思います。

【講義計画】 以下のような予定で講義を進めていきます。
①水～生命にとっての重要な性質と地球環境における役割
②海洋の生態系に生きる生物達
③海洋の生態系を支える植物プランクトン
④海洋環境と光合成生産
⑤水をめぐる地球環境問題

【評価方法】 最後に試験を行う予定です。試験にはノートを持ち込んでも可です。出席状況を最重視しながら試験結果と合わせて評価を出します。

【テキスト】 特に定めません。参考書となる本は講義の中で随時紹介していきますが、必ずしも買う必要はありません。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02121 02122	森と人と生物たち1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	江 本 純
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 皆さんの想い出のなかに“大きな木”や“林”はありますか。私たちは便利な町に住んでいても、どこかで緑を求めています。実はこの緑つまり“森”は人類や文明とたいへん密接な関係にあります。“森がなくなると文明が減びる”といったら、あなたは信じますか。この授業は森にかかわるさまざまなそして身近な問題を、私たちの生活を通じて考え、どのような解決方法があるのか探っていくものです。

南山大学のキャンパスは他の大学に比べますと緑が大変豊富です。これはできるだけ自然の景観を壊さないように配慮しながら設計がなされ、緑を残し育ててきたからです。しかし教室棟がさらに建設され、さまざまな設備が充実してくるにしたがい、景観はしだいに変わらざるを得ません。地球の緑も同じ運命をたどっています。それは人間活動に因ってです。人間の生活は森を切り開くことにより発展していきます。しかし同時に森がないと生きていけないのです。

まず、私たちが身近に森をどのように捉え、どのように森とかかわりながら生活しているかを考えます。そして、森林破壊が人間の生活により先史時代からどのように進んできたかをみてみましょう。森の破壊が人類にいかにか大きな影響を与えているのかを思い知らされるでしょう。でもそれが人間の活動の本性だとしたら、私たちは“もうひとつの新たな人類活動”として“森との共存”

を身近なものとして創っていかなくてはなりません。

授業の最後に、人類に必要不可欠な森を考える象徴として、“南山のもり”を育てる方法を皆さんと共に探っていきます。

【講義計画】

1. ネパールの旅
2. ヨーロッパの旅、そして日本の風景
3. さまざまなモチーフとしての森
精神的なかかわりとしての森
風土としての森
資源としての森
環境としての森
4. 森の文化：東と西の底流
5. 森の文化：森に住む人
6. 気候と森：世界の気候区と植物相
モンスーンとはなんだろう
7. ナラ林文化と照葉樹林文化
森と食生活
日本文化の源流
8. 花粉分析：昔の環境を推定する
9. 森林破壊と文明の崩壊
地中海文明が森林の破壊とともに崩壊した
10. 地球規模からみた森林資源と環境破壊
11. 第四紀の中の現代：過去への招待
生物からみた日本列島の2万年
12. 蝶の飛ぶキャンパス“南山のもり”をつくろう
南山大学の構内に日本文化の源流の森をつくる

【評価方法】

レポートを基本とします。

【テキスト】

授業で紹介する本のひとつを購入していただきます。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02123	環境倫理	選・必	1～4	2	前期	高橋 広次
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】

『環境倫理と法』

【講義内容】

本講義は、最近とみにクローズ・アップされてきた環境問題を、特に法倫理の領域でとりあげる。今日の憲法体制を根底より規定している様々な近代的市民法原理、たとえば所有・契約・責任に関する原理は、社会的福祉国家の理念の下に大きな変貌を遂げているものであるが、しかし環境問題に直面するとき、自ずと別の相貌を提示しないだろうか？こうした面を考えることを機縁として、さらに「権利」(jus)、法(lex)といった伝統的な概念の内容にも遡って検討を加え、環境問題を射程に含めうるような法体系の可能性について考えてみる。

【講義計画】

- (1) 環境倫理について馴染みのない人たちに、この問題について1970年代頃から書かれてきた内外の文献の紹介、解説を行う。
- (2) 環境倫理学のもとにとり扱われる固有のテーマとしてどのようなことが議論されているか、その議論のトピスを挙げる。
- (3) 法的視角からすると環境倫理はどのような問題を提起するかを取り出してみる。
- (4) 環境倫理学の新たな法学的可能性へのインパクトを探る。

【評価方法】

成績の評価に際しては、レポートも評価の参考に加える。
毎回の講義の出席を重視する。

【テキスト】

『環境倫理学のすすめ』加藤尚武 丸善ライブラリー
『環境思想を学ぶひとのために』加茂直樹他 世界思想社
他の著作は講義時に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02125	環境資源の経営問題	選・必	1～4	2	後 期	薫 祥 哲
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 環境汚染や資源の枯渇が社会問題として取り上げられ、「環境に優しい」資源利用、あるいは「持続可能な経済発展」と言った言葉をよく耳にする。効率的な環境資源の利用あるいは運営とは、どのように決定されるべきであろうか。また、行政介入のない自由な企業経営制度は、理想的な自然資源の利用を達成するだろうか。自然環境の生態システムや、汚染物が環境に及ぼす影響の推定は自然科学分野からの情報が不可欠であるが、こういった社会的コストを考慮に入れた上で、純便益を最大化する様な資源利用を、効率的に決めて行く為には、ミクロ経済学に基づく分析が大切な役割を果たすと思われる。この「効率性」の追及は、「環境倫理」や「持続可能な資源利用」に基づく判断基準とは異なる所が多い。

この講義では、環境汚染コストの内部化、再生可能資源および枯渇性資源の最適利用、持続可能な経済発展、異世代間の資源配分、公共財としての環境資源、環境財の価値、自然生態システム等の不確実性下での意思決定などのトピックを、ミクロ経済学的な費用便益分析を用いて考えてみる。

【講義計画】 個々のトピックごとに、主としてテキストから、セクションを指定して講義を行う。テキストは経済学専攻者に限定せず、環境資源問題に興味のある一般学部生用に書かれたものである。関連のある新聞記事などのリーディングも、講義での内容の実例として取り入れることを考えている。

【評価方法】 後期定期試験

【テキスト】 David W. Pearce and R. Kerry Turner (1990), Economics of Natural Resources and the Environment, Johns Hopkins University Press, Baltimore, MD, U.S.A.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02127 02128	生命倫理 1・2	選・必	1～4	各2	前 期 後 期	浜 口 吉 隆
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 生命理論とは何か。その概念と歴史をみる。(1)人間の生命の意味、生命科学・技術と倫理の関係、人間の生命の尊厳と質の問題。(2)生命倫理のための一般的倫理原則、倫理と宗教、倫理と法、人間の良心的判断と責任ある選択の問題。(3)人間生命の始まりの問題。性と愛と結婚、受精調節とその倫理性、人工受精と体外受精、堕胎の倫理と法など。(4)健康と生命の問題。患者と医師の関係、インフォームド・コンセント、患者の権利と医師の責任、臓器移植の可能性と限界、延命中止と自然死など。(5)人間生命の終りの問題。苦痛と死の人間的意味、死の定義と脳死、自殺と他殺、安楽死と尊厳死思想など。以上のようなテーマを倫理的原則と宗教的人間観に基づいて講述する。

【評価方法】 レポート提出と筆記試験によって評価する。

【テキスト】 参考文献は適宜にテーマに従って紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02201	情報科学と心の問題	選・必	1～4	2	前 期	服 部 裕 幸
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 現代は情報化社会といわれています。コンピュータ・サイエンスを始めとしていわゆる情報科学の発展には目覚ましいものがあります。将来は高度なコンピュータ・システムを組み込んだロボットもできるでしょう。しかし、鉄腕アトムのようなロボットはできるのでしょうか。人間のように心をもった機械というのは可能なのでしょうか。もし不可能だとしたら、その理由は何なのでしょう。

うか。この講義ではこうした問題を考えてみたいと思います。

受講にあたっては、プログラミングやコンピュータのハード・ウェアなどについての専門的知識は必要ありません。

- 【講義計画】
- 第 1 回：「人間には心がある」・「馬が笑う？」・「植物は痛みを感じない！」
 - 第 2 回：そもそも心とは何か
 - 第 3～4 回：常識は辻褃が合っていない！
 - 第 5 回：ヴァーチャル・リアリティと心
 - 第 6～7 回：悲しいから泣くのか、それとも泣くから悲しいのか
 - 第 8 回：脳と心の関係
 - 第 9 回：コンピュータは人間より「計算」が得意！
 - 第 10 回：サールの「中国語の部屋」
 - 第 11 回：人間の知能とコンピュータの知能の違いはどこにある？
 - 第 12 回：人間は言語をどのように理解しているか

【評価方法】 主として試験あるいはレポートによって成績評価を行うが、出席状況も多少加味することがある。

【テキスト】 教科書は使用しない。つぎのものを参考書として推薦する。
土屋 俊『心の科学は可能か』東京大学出版会

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02203	翻訳と理解	選・必	1～4	2	後期	服 部 裕 幸
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【講義内容】 わたしたちは日頃なにげなく、多くの翻訳書を読んだりして外国の事情について情報を得ています。また、外国の人に日本の事情を理解してもらおうと、悪戦苦闘することもあります。しかし、翻訳すること、あるいは翻訳を通して何かを理解するとはどういうことなのでしょう。俳句の翻訳というものがあありますが、俳句や詩はそもそも翻訳可能なのか、と疑問視する人もいます。それならば、俳句のような芸術的作品でなければこのような問題は起こらないのでしょうか。現代日本の状況だけを見てみると、そこには何も問題がないように思えますが、鎖国していた日本が西洋の科学的知識に初めて接したときを考えると話はそれほど単純ではありません。また、最近では技術が進んで、自動翻訳システムなるものがありますが、機械が翻訳するなどということはそもそも可能なのでしょうか。

このように、翻訳や理解をめぐるいろいろな興味深い問題があります。この講義ではこうした問題をいくつか取り出してみなさんと一緒に考えてみたいと思います。

【講義計画】 文の翻訳と発話の解釈、翻訳と翻案、文化の翻訳、理解のモデル、翻訳の不確定性、コンピュータ・システムによる自動翻訳、などのテーマを取り上げて、一つのテーマあたり二回ほどの時間をかけて講義していく予定。

【評価方法】 主としてレポート又は試験の成績によるが、出席状況を多少加味するかもしれない。

【テキスト】 特に使用しない

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02205	ことばと認識	選・必	1～4	2	後期	立 松 弘 孝
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【講義内容】 ヨハネの福音書の冒頭には「始めに言葉（ロゴス）があった、言葉は神とともにあった、神は言葉であった」と書かれている。他方、人間についても、人間とは「理性（ロゴス）をもつ動物である」とか「言葉を話す動物である」などと定義され、さらに「言葉は理性の特性である」とも言われる。この講義では、言葉と認識の関係について、特に母国語が人間の思想や認識に与える影響について考察する。われわれは、世界の中で出会うすべての事物や出来事に、それぞれ特定の意味と名前を与え、それらをさまざまに分類し秩序づけて、物事を認識している。それゆえわれわれ人間

は、言語を始めとするシンボルと、シンボルが表現する意味の世界で生活しているのであり、従ってわれわれは物そのものを直接認識し経験するのではなく、常に「言語的中間世界」を介して物事を認識しているのだと言える。ところが、諸事物を分類し秩序付ける仕方（すなわち各言語の世界像）は、各言語・各方言によって色々異なっている。そのため、母国語が違えば、当然事物の認識の仕方でも違わざるをえないとする、いわゆる言語相対主義の仮説も生まれてくる。

【講義計画】 この講義では以上のような論点をめぐり、①言葉の機能、特に言葉の意味と指示される対象との関係、②言語の世界像と言語相対主義、③言語なき思考の可能性、④人間の言語と動物の言語との違い、などについて論考する。参考文献は講義の中で紹介し、特に重要な論点は印刷して配布する予定。

【評価方法】 成績評価は主に筆記試験によるが、出席率も重視する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02207	コンピュータと人間 1	選・必	1～4	2	前期	柴 田 正 良
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 コンピュータに何を加えたら人間になるか

【講義内容】 この講義は、コンピュータのもっている（あるいはもちうと思われる）能力と人間の能力を比較することを通して、物理的であると同時に心的でもある人間存在の独特さを理解しようとするものである。コンピュータが心をもちうと考えるのは、どこがイケナイのか？一言でいえば、この講義はこの問題に対するチャレンジである。出来合いの答えはない。いやどのような答え方をすればいいのか、ということすら分かっていないのだ。

【講義計画】 以下のサブテーマに従って講義し、そのつど問題点を全員でディスカッションしながら進めていく。各サブテーマごとに、各自の意見をミニ・レポートの形で求める。

- (1) チューリング・テスト (Turing's test) の意味
- (2) コンピュータは何が苦手か
- (3) サールの「中国語の部屋」 (Chinese room)
- (4) 意味論的なものと構文論的なもの
- (5) デネットの志向的システム (Intentional system)
- (6) パトナムの「桶の中の脳」 (Brains in a vat)
- (7) 行為と行為の説明の文脈
- (8) 心一身問題の諸相
- (9) 進化論の文脈におけるコンピュータ

【評価方法】 そのつどのディスカッションにおける平常点、ミニ・レポート、および期末のレポートによって成績を判定する。評価のポイントは、何を覚えたかではなく、何を考えたかである。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02208	コンピュータと人間 2	選・必	1～4	2	後期	戸 田 山 和 久
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 Android psychology and ethics

【講義内容】 コンピュータは昔は（といっても私の子ども時代）「電子頭脳」なんて呼ばれていました。登場したそもそもの初めから、単なる計算機＝思考、知識の代替物あるいはシミュレーションと考えられていたことがわかります。

この「第二の頭脳」の発展が、私たちの生活を大きく変えてきたことは間違いありません。しかしそれよりも重要だと思われるのは、こうした新しい頭脳が現れたことによって、何よりも私たちの《人間観》が大きな変化にさらされている、ということです。

計算機が頭脳なら、私たち人間の心の働きもつまるところは計算なのだ、ということになるのでしょうか。私たちは所詮良くてきた計算機にすぎないのでしょうか。それとも、それを超える何か、

プラス・アルファを持っているのでしょうか。持っているのだとしたら、それは何でしょう。
この講義では、こうした問題を考えることを通じて、人間の心、知識、行為に対する理解と洞察を深めることを目標とします。コンピュータそのものについての講義ではなく、コンピュータを通して見た人間についての講義ですから誤解のないように。

【講義計画】 詳しい講義計画は、開始時に課題図書リストとともに配布します。

【評価方法】 講義の中ほどと期末に二回のレポートを提出してもらおう。レポートは大学生としてこれくらい書けなくちゃね、という水準を期待するので、提出しても不合格になることはかなりの確率でありうる。注意して《心》をこめて書くように。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02209 02210	20世紀の知識論 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	牛 島 謙
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 科学認識論入門

【講義内容】 20世紀の知識論のおもな主題は科学的知識である。この講義では、20世紀後半の科学哲学で議論となったテーマを取り挙げて、科学はどのように発展するか、科学的知識とは何か、を考察する。

【講義計画】

1. ポパーの反証理論
境界設定問題
反証可能性
科学発展論
2. ハンソンの理論負荷性
反転図形
観察の理論負荷性
発見の論理
3. クーンのパラダイム論
通常科学
パラダイムと共約不可能性
科学の進化
4. デュエム＝クワインのテーゼ
デュエム
クワイン
知識のネットワーク
5. 科学とは何か

【評価方法】 筆記試験によって評価する。

【テキスト】 毎時間、プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02211 02212	言語と論理 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	大 沢 秀 介
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 「論理的である」とはどういうことか

【講義内容】 学生諸君の中には、友だちや先生との議論の最中に、「君の意見は論理的でない」とか「お前の言うことはすじが通らない」とか言われてくやしい思いをしたひとがいるでしょう。でも「論理的」ってどういうことなのでしょう。また、言うことに「すじ」が通るとか通らないとかいうのは？ わかっているようでいて、わからないのがこの「すじ」というやつです。この授業では「すじが通る」ということが「言うこと」とどのように関係しているのか、そもそも「論理的である」というのは何について言われているのか、それはどのようなことなのか、を理論的に考えてみるきっかけ

になるような勉強をしたいと思います。

【講義計画】 「論理的である」とはどういうことかの理論的な研究には、ある種の特殊な言語に日本語や英語の文の内容を翻訳することが必要です。ですからこの授業では、そのための言語 F O L を少し学習します。F O L はやさしい言語ですが、使いこなすためには練習が必要です。だからときどき宿題を出します。なるべく絵をたくさん使って、できればコンピュータも使ってみたいと思います。

【評価方法】 宿題と試験

【テキスト】 プリントを用意する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02213	知識と社会	選・必	1～4	2	前期	森 際 康 友
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 知識論のジレンマの研究

【講義内容】 「12+43はいくつ？」と尋ねたとき、電卓で計算の答を叩き出せる幼児には「算数の知識がある」と言っているのだろうか。筆算ができるかどうか、などを試してみないと、疑問が残るだろう。しかし、その子が正しい答えの出し方を知っていることは間違いない。それでもこの子には「算数の知識がある」とは言えないのだろうか。というのも、一方で現代科学の世界では、科学者は他分野の知識を用いて仕事をしているが、専門外の知識についてはいちいち検証せず、それぞれの専門家集団の権威を信頼している。これは、他の科学者共同体を電卓のように利用するのと変わらない。しかし、このとき、私たちは、科学者には「科学的知識がある」ということをはばからない。

このことは何を意味するのだろうか。知識の獲得方法を知っているだけで知識があると言えるとする立場を「知識の外在主義」と呼ぼう。それに対し、それだけでなく、証明など、知識と呼ばれるものが本当に知識であることを示しうることを要求する立場を「知識の内在主義」と呼ぼう。すると、私たちの日常的な知識観は分裂しており、知識の内在主義と外在主義の両方を認めている、ということになる。ところが、私たちは一方で自分たちの知識観は分裂しておらず、一体をなすものだと思っている。この思いなしは間違いなのだろうか。

この問題に対して、知識を統一的に捉える視座を求めて、知識の成立・使用・保存・伝達そして抹消のための社会的条件を考えてみよう。

【講義計画】 1. 抽象的に考えることはしないで、具体的に考え、その考え方が正しいかどうかをさまざまな経験的手法で試してみる。
2. 概説の後、調査研究の方法を説明する。
3. 班分けする。
4. 各班が課題を選び、分担して調査研究を行い、発表をまとめる。
5. その発表は主報告とコメントから始まり、ディスカッションを展開する。
6. 全報告をまとめ、論集を作る。

【評価方法】 上記の活動全体における取り組み・達成度などを総合的に評価する。出席はもちろん重視する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02215 02216	人間の情報処理 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	神 谷 俊 次
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 人間の「知」のしくみとその働き

【講義内容】 近年、心理学の領域で急速に発展してきた認知心理学では、人間に対する情報処理的アプローチが試みられている。本講では、従来の心理学で個別に分析されてきた「知覚」、「記憶」、「思考」といった心理過程に共通する情報処理過程について理解を深めることを主眼とする。

【講義計画】 講義では以下のようなテーマを取り上げる。

コンピュータと人間
文字や単語の認知
人間の情報処理容量
意識と無意識、注意の役割
脳と記憶
知識形成と知識構造
イメージ
言語理解

【評価方法】 学期末に筆記試験を行う。

【テキスト】 特に指定しない。必要に応じて印刷資料を配布する。参考図書に関しては、講義の中で紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02217 02218	人間の行動と心理 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	石 田 裕 久
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 人間行動の科学的解明をめざす心理学についての一般的知識を得るために、さまざまな問題領域におけるトピックスを参照しながら、その基礎となっている理論・考え方を概説する。

【講義計画】 本年度の講義は以下の各テーマに沿って行う予定である。

- ①習慣形成のメカニズム
- ②言語のはたらき
- ③動機と人間の行動
- ④性格と人間の行動
- ⑤認知と態度のかかわり
- ⑥個人と集団の心理

【評価方法】 定期試験期間中に筆答による論述試験を行なう。また、授業内容に関わるレポート提出を求めることがある。

【テキスト】 参考書：村田孝次（著）「教養の心理学」培風館
若松利昭他（編）「テキスト心理学」福村出版

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02219 02220	日本文化の表現 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	安 田 文 吉
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 近世芸能の表現

【講義内容】 歌舞伎・人形浄瑠璃を中心とする近世芸能は、先行の諸々の文化・文学を取込んで成立している。この講義では、歌舞伎・人形浄瑠璃の成立とそれらの代表作品を一〜二取り上げて、VTRを見ながら、その表現方法の特色を考え、合せて近世芸能文化の意味を検討する。

【講義計画】 歌舞伎・人形浄瑠璃の成立から話して、その時にふさわしい歌舞伎・人形浄瑠璃作品を取り上げて、詳細に検討する。御園座の歌舞伎を、授業の一環として観賞する予定。

【評価方法】 筆記試験を実施。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02221 02222	情報文化論 1・2	選・必	1～4	各2	前 期 後 期	横 山 輝 雄
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 見世物・博覧会・デパート・テーマパーク

【講義内容】 大衆消費文化の誕生とともに、人々の生活様式や文化のあり方に変容が生じた。それまで社会の中の一部の人々のものにすぎなかった文化が、大量に生産され消費される対象となったのである。鉄道旅行やマス・メディアの普及、複製芸術の発達などがもっている文化史的意義はきわめて大きい。博覧会は、消費文化の広告装置として、それまでの大衆娯楽の見世物に変わって登場し、それが日常化したデパート（百貨店）は、特に日本において文化の担い手として大きな役割を果たしてきた。そしてそれは現在東京ディズニーランドのようなテーマパークとして展開しており、それらの歴史的・文化論的理解を目標とする。

【講義計画】 まずロンドンやパリを中心として19世紀に開催された万国博覧会について簡単にその意義（例えば近代都市の成立との関係など）についてふれ、日本人がそれにどう参加していったか（例えば名古屋城の金シャチが明治の初めにウィーン万博に出品されたことや、ジャポニズムと呼ばれる日本趣味が成立したこと）を述べる。そして日本国内における博覧会や、百貨店の文化活動、鉄道会社と新興住宅地の形成、東京オリンピックと大阪万博の意義、などについて説明し、なぜ東京ディズニーランドに人が集まるかについて文化論的に検討し、現在の大衆消費社会における広告宣伝、イメージ形成と結びついた言語表現の性格や情報の役割について説明する。

【評価方法】 主として定期試験（筆答）による。

【テキスト】 吉見俊哉『博覧会の政治学』（中公新書）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02223	ことばとは何か 1	選・必	1～4	2	前 期	靱 山 洋 介
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 まず、「人間のことば」の一般的特徴を、「他の動物のコミュニケーションの手段」と比較して考える。

次に、一言語内の多様性に注目する。例えば、一口に日本語と言っても、地域によって異なりを見せるし、話し手の年齢・性別等による違いも少なくない。このような一言語内の多様性と様々な社会的要因との相関関係について考える。

さらに、世界の諸言語に目を向け、その多様性を踏まえた上で、その背後に潜む傾向性・普遍性を明らかにし、日本語はどのように位置付けられるのかについて考察する。

【講義計画】 受講に当たって、専門的な知識は一切必要としないが、当然のことながら、日本語であれ、外国語であれ、「ことば」について何らかの興味を持ち、「ことば」について考えることが楽しいと思える人であることが望まれる。

授業は、講義を中心に進めていくが、毎時間何らかの形で、受講者に発言を求める。積極的に考えを述べることを期待する。

【評価方法】 筆記試験及び平常点。

【テキスト】 随時参考文献を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02224	ことばとは何か 2	選・必	1～4	2	前期	西 脇 博
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 個々の言語の専門的な研究ではなく、言語一般についての多方面からする考察である。日常生活をはじめ、学問、政治、経済など文化のあらゆる側面を支えている言語とは、どのような性質を持ち、個人の精神生活や社会生活のなかでどのような機能を果たすか、動物の伝達行動と人間の言語活動はどのように異なっているのか、また言語はどのようにして習得されるか、外国語学習の難しさと意義はどこにあるのか、などの問題を考察する。

【講義計画】

1. 言語記号の性質（動物の伝達と人間の言語）
2. 言語によるコミュニケーション（意味の諸相）
3. 言語の習得（母語の習得；外国語の習得）
4. 言語の機能（個別的言語使用での機能；社会的機能）
5. 言語と社会（地域方言、社会方言）

【評価方法】 学期中に小試験、学期末に総合的な試験を行う。

【テキスト】 田中春美他著「入門ことばの科学」大修館書店1994
他にプリント使用

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02225	言語学の基礎 1	選・必	1～4	2	後期	靱 山 洋 介
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 言葉の研究入門

【講義内容】 主に日本語と英語を素材として、言語学の基本的な考え方、言語学の主要分野の研究方法を身に付けることを目指す。
特に、音・語・文の各レベル及び意味の基本的な分析方法を、具体的に学んでいく。

【講義計画】 受講に当たって、専門的な知識は一切必要としないが、当然のことながら、日本語であれ、外国語であれ、「ことば」について何らかの興味を持ち、「ことば」について考えることが楽しいと思える人であることが望まれる。
授業は、講義を中心に進めていくが、毎時間何らかの形で、受講者に発言を求める。積極的に考えを述べることを期待する。

【評価方法】 筆記試験及び平常点

【テキスト】 随時参考文献を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02226	言語学の基礎 2	選・必	1～4	2	後期	西 脇 博
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 前期「ことばとは何か」を受けて、言語学の基本的な分野、研究方法などを概観する。言語は人間活動のあらゆる側面と結びついており、多くの学問と関連するが、同時に、記号システムとして独自の研究領域を造っている。世界の言語は普遍的性質と共に、音韻、文法、語彙において独自の構造を持ち、極めて多様である。さらに言語は時代と共に変化し、また他の言語から新しい要素を

取り入れる。言語学はこれらの現象をどのように研究・記述するか、その基礎となる言語観はどのようなものであるかを考察する。

- 【講義計画】
1. 言語研究の多面性（言語学と関連諸科学）
 2. 言語音声（音声学、音声の記述）・文字
 3. 言語の構造（音韻・文法・語彙構造）
 4. 言語研究のアプローチ（言語学史的概観）
 5. 言語の多様性（世界の言語；対照的研究）
 6. 言語の変化（音韻・文法・意味の変化；言語の系統；言語接触）

【評価方法】 学期中に小試験、学期末に総合的な試験を行う。

【テキスト】 田中春美他著「入門ことばの科学」大修館書店1994
他にプリント使用

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02227 02228	プライバシーの人間学1・2	選・必	1～4	2	前期	阪 本 俊 生
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 近代人とプライバシーの意識

【講義内容】 プライヴァシーを多角的な視点から紹介した後、プライバシー意識を個人主義社会に特有の社会現象としてとらえながら、この現象の近代社会における意味を解説していく。

【講義計画】 プライヴァシーに関連すると思われる神話や伝承、歴史的記録や人類学的諸研究などを紹介しながら、そこに見られる一つの共通性についてG. ベイトソンのコミュニケーション論を参考にしながら明らかにしていく。

アルトマンのプライバシーを見る際の二つのレベルという議論を通じて、この問題が普遍的か特定文化的かという問題についての考え方を提起して説明する。プライバシー法の提唱者とされるウォレンとブランドイスの議論を始め、プライバシー保護論者の主要な論点を紹介しながら、上記の共通性と彼らの主張との関連について説明する。

プライバシー意識の高まりの時代から、アメリカにおけるプライバシーの立法化への動き、その後の主要な判例とその流れについて概説する。

プライバシー意識が稀薄な社会と個人主義社会とを比較しながら、この意識の特異性について見るとともにエリアスの個人主義社会批判を概説する。

ミクロ都市社会学の研究成果を通じて、解釈の過剰性という点からプライバシー意識にアプローチするとともにこれまでの議論との関連性を見ていく。

個人主義社会におけるコミュニケーションの問題とプライバシー意識との関連性について説明し、さらにコンピュータによる個人情報処理が社会に及ぼす影響について概観する。

【評価方法】 記述式のテストを学期末に行なう。

【テキスト】 なし。参考文献を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02229	偶然の中の規則性	選・必	1～4	2	前期	松 田 眞 一
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 現代社会はたくさんの情報があふれている。そういった情報の中から有用なものをより分け役立てていくことは、重要なことである。本講義では、「偶然とは何か？」を追究することにより、特に数値情報のもつ性質・規則性を概説していく。取り上げるテーマは比較的身近なものにかぎり、データを見る力・使う力の向上を目指す。

なお、数値を扱うが、計算は四則演算程度であり、高度な数学的知識は前提としない。

【講義計画】 以下のようなテーマを取り上げていく。

1. 偶然とは何か（乱数編）
2. ジンクスについて
3. 情報を数値で表す
4. 偶然とは何か（ゲーム編）
5. 降水確率とは
6. 平均や偏差値について
7. 視聴率とは

各テーマは1, 2回の講義に相当する。順調に進んで上のテーマが終了した場合、類似の身近なテーマを随時追加して進めていく。

なお、主体的に学習を進めてもらうため、いくつかのテーマで演習・実験などの時間を設ける予定であり、それらの結果はレポートとして提出してもらう。

【評価方法】 定期試験6割、レポート4割で評価する。

【テキスト】 特になし。必要ならばこちらでプリント等を準備する。ただし、演習・実験の必要上、常に電卓及びトランプの準備を必要とする。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02231 02232	歴史と史料1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	新井喜久夫
他の科目 との関連				他学科 履 修	重 複 履 修	不可

【副 題】 史料から情報を読みとる

【講義内容】 古来よりよく知られている事柄は多い。しかしそれが俗説の形でありにも有名になり過ぎたため、真実とは関係なくひとり歩きしている場合も少なくない。例えば、百済の阿佐太子筆とされる聖徳太子像は紙幣にも採用されたため、ほとんどの人はその顔を思い浮かべることができる。しかしその顔は本当に太子の似顔とっていいのか。この太子像はいつどのような事情から太子像の本命としての位置を獲得したのか。このようなひとつの通説に対して、可能な限りの史料をぶつけ、その真相に迫ってみることにしたい。

- 【講義計画】
- ①聖徳太子の肖像画
 - ②三関はなぜ西方に置かれなかったか
 - ③養老の滝・孝子伝説の原型
 - ④藤原種嗣の暗殺
 - ⑤酒吞童子伝説
 - ⑥菅原道真と天神
 - ⑦織田信長の家系は平氏か
 - ⑧織田信長は名古屋生まれか
 - ⑨神功皇后伝承
 - ⑩源義経はジンギスカンか
 - その他

【評価方法】 学期末に筆記試験を実施

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02233 02234	コミュニケーションの社会学1・2	選・必	1～4	各2	後期	阪本俊生
他の科目 との関連				他学科 履 修	重 複 履 修	不可

【副 題】 自己、都市、リアリティ、ファンタジー

【講義内容】 人間のコミュニケーションに関連するさまざまな理論を、社会学的な観点から具体例を織り込みつつ概説する。

- 【講義計画】 自己と社会との関わりをコミュニケーションという観点から説明する。
 近代都市の匿名的な領域におけるコミュニケーション問題を取りあげた後、環境心理学における都市研究と最近のミクロ社会学の都市研究とを比較しながら、現代の都市におけるさまざまなコミュニケーションの様態と可能性を見てゆく。
 マスコミ論の基礎について概説した後、私たちのリアリティと虚構との関係をフレームという概念を通じて説明する。さらに、ベイトソンの「遊びとファンタジーの理論」や「ダブル・バインド理論」を拡張的に説明しながら現代社会のコミュニケーションの特徴と問題性を明らかにしてゆく。
 このところきわめて活発化してきたさまざまなメディアを通じてのコミュニケーション・ネットワークの社会学的意味について、上記の問題と関連づけながら説明する。

【評価方法】 記述式のテストを学期末に行なう。

【テキスト】 なし。参考文献を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02235	社会現象とOR	選・必	1～4	2	前期	澤木・穴太 鈴木（敦）
他の科目との関連					他学科履修	重複履修 不可

【講義内容】 この講義は、3人の教員のオムニバス形式で、実社会の問題に対するOR（オペレーションズ・リサーチ）的なアプローチを解説するものである。履修学生は、経済、経営、法学部の学生ばかりでなく、下の問題に関心のある学生ならば、文、外国語学部の学生も歓迎する。

【講義計画】 ◎航空サービス産業の規制緩和とOR（澤木勝茂）
 （講義回数4回）

航空サービス産業の規制緩和により航空会社を取巻く環境は大きく変化しつつある。航空料金の自由化にともない航空会社はもはや単一の料金制の下で航空券を販売しない。同一の質の座席クラスに対して異なる選好を持つ種々の乗客が存在するため、航空会社は広範囲な種類の航空券を販売している。この講義では次のように4回にわたって航空料金の価格差別化と収益管理の理論と実態について講義する。(1)航空料金の経済学と料金設定の現状、(2)旅客の選好と旅行需要、(3)航空会社の座席管理による予約システム、(4)航空会社の収益管理。

◎結婚問題の数理的アプローチ（穴太克則）（4回）

“結婚”という社会現象に対する数学的モデルとその周辺について講義する。念押しするが「モデル」である。以下の予定である。(1)結婚問題とは—その定式化、(2)最適解とその意味、(3)結婚問題のバリエーション、(4)まとめ。

◎ボロノイ図とその応用（鈴木敦夫）（4回）

ボロノイ図は、勢力圏図の一種で、種々の興味深い性質を持っている。ここでは、ボロノイ図を各自、製図することから始め、それらの性質を実感してもらい、都市工学上の応用まで触れる。(1)ボロノイ図とは、(2)ボロノイ図を用いた配置問題の例—ポストの配置問題、(3)バス停の配置問題、(4)競争立地問題

【評価方法】 評価は各テーマに関するレポートによる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02301	ヨーロッパの近代思想	選・必	1～4	2	前期	加藤泰史
他の科目との関連					他学科履修	重複履修 不可

【副 題】 近代合理主義の生成と啓蒙主義の人間像

【講義内容】 マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の分析を手掛かりにして、近代合理主義がどのように生成してきたかを考察する。そして、こうした考察にもとづきながら、ヨーロッパ啓蒙主義がどのような人間像を提起したかを検討する。

【講義計画】 (1)マックス・ウェーバーと近代合理主義の問題
 (2)デカルトと「哲学の原理としての自我」

- (3)ヴィーコの反デカルト主義と歴史の問題
 (4)ディドロの啓蒙主義
 (5)カントの「批判」概念と「超越論的人間学」の構想

【評価方法】 講義中の聴講態度と筆記試験の成績等から総合的に評価する。

【テキスト】 金子晴勇編『人間学の射程』（創文社）。その他の参考文献等については講義中に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02303	近代都市と芸術	選・必	1～4	2	後期	加藤泰史
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 現代の都市論と世紀末のミュンヘン・ウィーン

【講義内容】 現在さまざまな「都市論」が提出されているが、それらを検討した上で、「生活空間」としての都市・「芸術空間」としての都市（あるいは、都市と建築物）・「文学」に現われた都市などといったさまざまな観点から「都市」の問題を哲学的に考察する。なお、後半では、それらの具体的な事例としてミュンヘンおよびウィーンを取り上げ、ヨーロッパの都市と日本の都市とを比較・考察する。

【講義計画】 (1)「都市論」の検討
 (2)都市と生活
 (3)都市と建築（あるいは、近代ヨーロッパの建築史）
 (4)都市と文学
 (5)都市としてのミュンヘンとキツチュの問題
 (6)ミュンヘンとR. ワグナー・ルードヴィヒ二世・森鷗外・トーマス・マン
 (7)世紀末のウィーン
 (8)ミュンヘンと名古屋

【評価方法】 講義中の聴講態度・レポート・筆記試験の成績等によって総合的に評価する。

【テキスト】 テキストは特に指定しないが、参考文献等については講義中に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02305 02306	文学と近代1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	細谷 博
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 [文学に描かれた人間像－「見出された者」]

【講義内容】 近代文学の名作を読み比べ、そこに提示された人間像と、さらにそのすぐれた表現の実際を検討することによって、「近代」における、言葉による人間理解の問題を考える。夏目漱石の小説作品を中心に読む。

『こゝろ』は、漱石の長篇中で最も読まれてきた作品の一つである。しかし、それがなぜ読者をつよく引きつけてやまないのかを説明することは必ずしも容易ではない。E. マクレランによる優れた英訳テキストと比べつつ、また同じく大正期の青年像を描いた倉田百三の戯曲『出家とその弟子』や、さらには『こゝろ』と同様の「見出された者」のモチーフをもったモームの小説『月と六ペンス』等を傍らに置くことによって、小説『こゝろ』の魅力にあらためて迫る。

また『それから』は、一人の人間の内的世界の動揺と分裂、さらにその奥にひそむ強い希求心を、絶えざる時間的経過の相の下に描いた作品として読むことができる。その後につづく『門』の、内的世界のみでなく「生」の表層をも描ききろうとした試みにもふれつつ読解する。

【講義計画】 上記のように、執筆順ではなく『こゝろ』を最初にして、各種の導入をまじえつつ、各作品を分析し、解説していく。

【評価方法】 定期試験により評価する。

【テキスト】 夏目漱石『文鳥・夢十夜・永日小品』（角川文庫）
 夏目漱石『それから』（新潮文庫）
 夏目漱石『門』（新潮文庫）
 夏目漱石『ころも』（新潮文庫）
 夏目漱石『私の個人主義』（講談社学術文庫）
 倉田百三『出家とその弟子』（新潮文庫）
 サマーセット・モーム『月と六ペンス』中野好夫訳（新潮文庫）
 Natsume Soseki Kokoro (Tuttle Co.)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02307 02308	日本文学の中世と近世 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	大 谷 俊 太
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 [日本中世・近世和歌史]

【講義内容】 明治維新以後、我国の近代化が推進されて行く中、ことと和歌（短歌）の世界に関しては、本格的な改革運動は三〇年代の与謝野鉄幹・正岡子規を待たねばならない。それほどに旧来の和歌の伝統は根強かったのであるが、近代短歌は従来の伝統的な和歌の何を否定し、何を受け継いだのか。先ず、中世後期、南北朝以後の和歌史の流れを辿り、その近世の堂上和歌あるいは国学者を中心とする新風の和歌とその連続性・非連続性を考え、それを以って近代短歌の成立を考える一視座とする。

【講義計画】 随時、具体的な和歌作品・歌論を取り上げ、それを講読・解説を行う形で和歌史の流れを辿ることに努める。

【評価方法】 筆記試験および出席。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02309 02310	中国近現代文芸の諸相 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	中 裕 史
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 中国現代詩のすがた

【講義内容】 1920年代から30年代にかけて、中国では、すでに形骸化して久しい旧詩（いわゆる漢詩）に代わる新しい口語詩を創作、確立する試みが、さまざまな角度から、さまざまな詩人たちによって行われた。本講では、そうした詩人の一人である下之琳（ビエン・チャーリン）について、彼が追及した詩の理想を明らかにするために、その詩作品や理論の分析、先行する諸詩人の影響などの考察を進める。

【講義計画】 講義の進め方は、およそ下記の順をとる予定。
 ①当時中華民国における政治、社会、文化などの状況を概観する。（3回程度）
 ②小レポートの提出とその評価
 ③下之琳の作品の鑑賞。あわせて評論文や外国の詩の翻訳などにもふれる。
 ④小レポートの提出とその評価
 受講生には、上記のごとく小レポート（2回）の提出と、講義で鑑賞した詩等に対する短評（毎回）の提出を求める。

【評価方法】 毎回提出の短評、提出2回の小レポートおよび定期試験によって総合的に評価する。

【テキスト】 秋吉久紀夫編訳『下之琳詩集』（土曜美術社）
 同上編『精選 中国現代詩集』（同上）
 上記2冊を参考書とする。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02311 02312	ヨーロッパ近代史 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	R. Szimpl
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 ヨーロッパ近代社会の成立

【講義内容】 ヨーロッパの近代社会は様々な改革や革命の結果として成立したものである。講義はルネサンス時代から現代までヨーロッパの社会、文化、政治、経済を形成してきた「革命」的な動きに焦点をあわせ、ヨーロッパの近代社会の成立と展開を考察して、近代世界についての理解を深めていく。

【講義計画】 本講義では、まず、ヨーロッパ中世世界の崩壊から始まって、近代への過渡期のルネサンス文芸復興、宗教改革、地理上の発見、商業の発達、絶対王政の成立がもたらした政治的、社会的、経済的变化について考える。次に、近代の物質的社会的根拠となった「科学革命」、「産業革命」、資本主義の発展、それから近代的国民国家の基礎をなしている「市民革命」と政治思想（自由主義、ナショナリズム、社会主義）の発展を考える。最後に、19世紀と20世紀の国際関係の諸問題に触れる（帝国主義、第一次、第二次世界大戦）。

【評価方法】 試験の結果を中心に評価するが、出席も重視する。

【テキスト】 大下尚一他編『西洋の歴史〔近、現代編〕』（ミネルヴァ書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02313 02314	日本近代史 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	石 月 静 恵
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 近代日本における女性の地位の変遷過程

【講義内容】 近代日本における女性の地位の変遷過程を地域史の視座も入れながら考察する。とくに「家」制度、女性労働者、女性運動、戦争と女性の関係など、現代的課題を踏まえながら検討することにより、女性史の視点を養っていききたい。講義を中心とするが、視聴覚教材の使用やレポート作成などもおこなう。

【講義計画】 次のような講題ですすめていく。

- 序. 女性史研究の歴史
1. 明治維新と女性
2. 文明開化と女子教育
3. 自由民権運動と女性
4. 明治民法と「家」制度
5. 女性労働の変遷
6. 女性論の系譜－母性保護論を中心に
7. 女性雑誌の功罪－婦人之友・婦人公論・主婦之友
8. 女性運動の展開
9. 15年戦争と女性
10. 占領下の日本

【評価方法】 授業への出席と受講の仕方、レポート、定期試験により評価する。

【テキスト】 愛知女性史研究会編『写真でつづるあいちの女性史』（郷土出版社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02315	近代教育の諸問題	選・必	1～4	2	前期	廣 田 照 幸
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 近代教育の社会史

【講義内容】 社会史の視点に立つて、近代教育に関する近年の諸研究を概観する。特に、近年西洋史の中における教育史・子供史・家族史の諸研究が、従来の通念となっていた学校の進歩的役割や子供無垢性、家族の普遍性に大きな疑問をつきつけるに至っている。それゆえ、本講義では、前半では主として欧米の諸研究の中から「歴史像の見直し」に関わる論点を拾い出して紹介する。後半では余裕のあるかぎり、日本を対象とした近年の研究についても触れることにする。

【講義計画】 (1)子供・家族・学校——問題の所在
(2)「子供」の発見？あるいは発明？
(3)近代家族の構成
(4)家族・子供と国家
(5)近代公教育の4つの系譜
(6)学校の役割——規律訓練の装置としての学校
(7)大衆の教育(1)——社会秩序の維持装置
(8)大衆の教育(2)——選抜配分と階層秩序
(9)逸脱・不適応の問題
(10)現代日本の教育

【評価方法】 授業終了後、試験を行う。また、出席も評価に加味する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02317 02318	モダンの推進力としての科学1・2	選・必	1～4	各2	前期	小 林 傅 司
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 自然観の変容と科学技術

【講義内容】 現代の日本社会が科学技術の中核として構成された社会であることは、誰もが納得する事実であろう。身の回りには科学技術によって生産された商品が満ちあふれ、室内は冷暖房で快適な空間にされ、移動する際には自動車や鉄道、飛行機を利用する。「自然」というものも、それを生業の必須のパートナーとしてきた農業の衰退とともに、レジャーの対象としても消費される商品の一つと化してきている。われわれの抱く自然観が、科学技術の進展とともに変容してきたのも当然といえよう。本講義では、モダンの推進力としての科学がわれわれの自然観に及ぼした影響をたどることを試みたい。

【講義計画】 まず16世紀後半から17世紀における「科学革命」の前後で自然観がどの様に変貌したかを歴史的に振り返る。同時にその際に生じた技術のあり方の変化にも目を向けることにする。

次に、19世紀のなって顕在化する科学と技術の融合の諸相を概観し、それが日常生活に与えた影響をいくつかの具体例に基づいて例示する。扱う事例は、時計と時間の観念の変容、交通手段の変化と世界観の変化、家庭電化製品の登場と家事労働の変化などの予定である。

最後に、近年大きく進展を見せている生命技術（脳死、遺伝子治療等）を、科学技術の進展にもなう自然観の変容の現代的事例として取り上げることにする。

【評価方法】 定期試験を原則とするが、適宜小テストやアンケートを実施する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02319 02320	現代の日本経済 1・2	選・必	1～4	各2	前期 後期	花 井 敏
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 現代の経済問題と価格メカニズム

【講義内容】 われわれが住んでいる日本は、資本主義社会である。このような社会では、誰も社会全体のことは考えずに、自らの利益のみを追求している。しかし、それでいてとりたてて不都合が生ずるわけではない。それは、価格メカニズムというすぐれた調整機能を資本主義社会が備えているからである。

本講義では、まず、価格メカニズムの機能、役割を平易に解説し、ついでその限界を考えてゆく。さらに、経済学の考え方を学び、それに基づいて日常われわれが目にする現象を経済学の目を通じて考え直してみる。日常的にげなく眺めている現象も、経済学の論理でとらえてみると意外な面が浮かび上がってくるはずである。

【講義計画】

1. 価格メカニズムの働き ー誰に、何を、どれだけ、どのように、作るかー
2. 希少性、選択、機会費用 ーまず希少性ありきー
3. 機会費用の考え方 ーあちらを立てればこちらが立たずー
4. 合理的選択の考え方(1) ー道徳家、法律家、エコノミストの違いはー
5. 合理的選択の考え方(2) ー大学進学のコストと便益ー
6. 需要曲線、供給曲線、均衡(1) ー経済学の三種の神器ー
7. 需要曲線、供給曲線、均衡(2) ー三種の神器で何が見えるー
8. 比較優位の原理 ー社会は天才も鈍才も必要とするー
9. 価格メカニズムの活用 ー道路の混雑をいかに解消するかー
10. 結局は誰が負担するか ーフリー・ランチは食べられないー
11. 差別価格とは何か ー女性優遇にもわけがあるー
12. 値引き交渉はなぜ行われるのか ー日本人は値引き下手?ー
13. 学歴社会と実力社会 ー日本は本当に学歴社会かー
14. 日本の教育システム機能と弊害 ー大学性はなぜ勉強しないのかー

【評価方法】 出席、レポート、定期試験の成績から総合的に評価する。

【テキスト】 岩田規久男『経済学を学ぶ』（ちくま新書、1994）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02321	政治における近代	選・必	1～4	2	前期	菊 池 理 夫
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 近代の光と影とポストモダンについて

【講義内容】 われわれは明治以降、西洋文明の圧倒的な影響のもとに、近代化を推進し、ある意味ではそれは成功した。しかし、現在環境破壊にみられるように近代化の問題も指摘されている。また、日本社会では個人主義のような近代の原理が実現しているかに関して、疑問も投げかけられている。

この講義では近代の功罪を原理的に明らかにするとともに、それがどのように現実には具体化され、制度化されてきたかも明らかにしていきたい。そのことによってプレモダン、モダン、ポストモダンが複雑にからみあう現在の日本の状況を、主として政治の面から考えていきたい。

【講義計画】

1. 近代の超克とポストモダン
2. 「作為としての政治」と自然
3. 個人の自立と共同体
4. 権力と「学校」「工場」「監獄」
5. 民主主義と大衆批判

以上のようなテーマで授業をすすめていく。

一方的な講義をできるだけ避けるために、授業内容の理解度と各人の見解を書かせる小テストを数回行う予定。

【評価方法】 数回の授業中の小テストと期末テストによって総合的に評価する。

【テキスト】 『モダンとポスト・モダン』（木鐸社）

参考書：福田歓一『近代の政治思想』（岩波新書）
桜井哲夫『近代の意味』（NHKブックス）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02323	人権のモダンとポスト・モダン	選・必	1～4	2	後 期	沢 登 文 治
他の科目との関連				他学科履修		重 複 履 修 不可

【副 題】 近代人権とは？新しい人権とは？

【講義内容】 近代人権の基礎となった人権思想がどのような考え方に基いていたのか、また、それを表明した人権宣言などの文書は何を規定していたのか、そしてその後、現在ではどのようなあたらしい人権が唱えられているのかなどを、社会の動きを考慮に入れつつ、時間の流れに沿って概観していく。それによって、世界的に普遍化しつつある多くの種類の人権の価値を確認することを目標とする。

【講義計画】 上の目標を達成するために、講義は順次以下のように進行する。
1 近代人権思想の内容と近代憲法の人権（モダンの人権）
2 近代社会の発展と近代人権の変容（モダンの人権からポスト・モダンの人権へ）
3 ポスト・モダンの人権と現行憲法の対応
4 明治憲法の人権と現行憲法の人権（日本のモダンとポスト・モダン）
5 現在の人権とその普遍性
6 新しい人権と現行憲法の対応
受講生は、テキストを予め読んでから授業に出席することが期待される。

【評価方法】 定期試験の結果で評価する。

【テキスト】 杉原泰男著『人権の歴史』（岩波市民大学 人間の歴史を考える⑦）（岩波書店）
『解説 世界憲法集』（三省堂）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02325	近代ドイツ文芸思想	選・必	1～4	2	後 期	内 藤 克 彦
他の科目との関連	比較文化科目の一環として			他学科履修		重 複 履 修 不可

【副 題】 18世紀中葉から19世紀末まで

【講義内容】 本講は、ドイツ啓蒙主義文学理論の代表者ゴットシェートの擬古典主義的演劇論から始まって、ライプニッツの弁証論的世界観とヴィンケルマンの芸術論を背景として確立された古典主義的文芸論、それに対抗する形で提起されたロマン主義的文芸論、それに対して現実直視を重視する写実主義的、自然主義的文芸論を経て、哲学者ディルタイの「体験と文学」論に至までの近代ドイツ文芸思想の流れを概観する。

【講義計画】 次のような順序で、原則として1回にひとりの作家あるいは理論家の論を取り上げて、その主張の骨子を紹介解説する。
1. ゴットシェート、2. ライプニッツ、3. ヴィンケルマン、4. レッシング、5. ヘルダー、6. ゲーテ、7. カント、8. シラー、9. F. シュレーゲル、10. シュティフター、ヘッベル、11. ホルツ、12. ディルタイ

【評価方法】 定期試験（筆答）による。

【テキスト】 適宜プリント（邦訳文）を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02327 02328	西洋近代美術 1・2	選・必	1～4	各2	前 期 後 期	江 本 菜 穂 子
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 西洋絵画史にとって近代とは

【講義内容】 この講義では、19世紀から20世紀にかけての西洋美術史の中で、特に「絵画」を中心に起こった「革命」の展開を考えていくものである。各様式ごとの把握はもちろん、次の様式へ移行するその意味を理解し、絵画上の可能性、限界を理解できるようにしたい。毎週スライド使用。

【講義計画】

1. 講義ガイダンス、西洋美術史とは
2. 19世紀以前の絵画史
3. 19世紀 新古典主義絵画
4. “
5. 19世紀 ロマン派の絵画 ジェリコーを中心に
6. “ ドラクロワ
7. 写実主義（クールベ）から印象派の父マネへ
8. 印象派 モネを中心に
9. “ ルノワール、シスレー、ドガ等
10. 印象派の美学と技法
11. 後期印象派（ゴッホ、ゴーギャン、セザンヌ）
12. “
13. 新印象派から20世紀へ

【評価方法】 平常点とレポート又は試験

【テキスト】 「カラー版 西洋美術史」（高階秀爾監修）（美術出版社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
02329 02330	ヨーロッパの近代音楽 1・2	選・必	1～4	各2	前 期 後 期	清 田 健 一
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 18世紀から20世紀初頭へかけてのオーケストラ編成の移り変わり。

【講義内容】 副題にある問題について種々の作品の楽譜を見て、さらに音楽を聴き研究していく。

【講義計画】 各種楽曲の楽譜をスライドで見ながら、時代が降るにしたがって大きくなっていくオーケストラ編成と、それを可能にした時代の背景を考えていく。とりあげる主な作曲家。J.S. バッハ、ハイドン、モーツァルト、ベートーベン、ブラームス、ブルックナー、マーラー、ストラビンスキー

【評価方法】 レポート

【テキスト】 適当な出版物がないため授業のたびにコピーを作る。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03001 03003	哲学A 1・A 3	選	1～4	各2	前 期	本 多 英 太 郎
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 考えることと生きること

【講義内容】 哲学は難しい、またわけのわからない学問であるとしばしば言われます。しかしこれほど単純な学問はないのではないのでしょうか。というのも、自分が生きていることを疑う人は誰もいないでしょうし、そしてこの自分が生きていることを納得いくまで考えてみることを許してくれる唯一の学問こそ哲学にほかならないといってもよいからです。哲学はその歴史的背景をもっています。哲学史を通して、「生きる」ということについて徹底的に考えてみます。

【講義計画】 講義は下記の三つのテーマにそって行われます。
 (1)哲学と知恵ープラトン『国家』（岩波文庫）を使って、哲学がどのような学問であるかを考えてみます。
 (2)機械論的自然観と人間ーデカルト『方法序説』（中公文庫）に基づいて、近代における一つの人間観を明らかにします。
 (3)人間と実践の問題ーマキアヴェッリ『君主論』（講談社学術文庫）を手がかりにして、実践（プラクシス）の問題について考えてみます。

【評価方法】 中間および期末試験にそれぞれ2問ずつ、計4問の小論文形式の筆記試験を行います。論題は講義から提出されます。出席は毎回とり、重視します。

【テキスト】 講義計画の中に示した三冊の本がテキストになります。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03002	哲学A 2	選	1～4	2	前期	田 中 末 男
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 哲学的人間学の諸問題

【講義内容】 本講義は、哲学をはじめて学ぶか、あるいはまだ本格的に学んだことのない学生諸君に対して「哲学入門」的性格をもつものである。ここにおいて哲学すること（philosophieren）の喜び、楽しみそして苦しみを伴にわちあいたいと念願するものである。
 講義のテーマとしては、われわれにとって最も身近な存在、そして身近であるゆえにかえってしばしば飛び越えられてしまっている存在、すなわち人間存在をめぐる古今東西の哲学的思索の跡をたどることによって、より深い人間理解・自己理解に達するための機縁となることを心がける次第である。

【講義計画】 1)西洋思想における種々な人間像（ホモ・サピエンス、ホモ・ファーバー、ホモ・ルーデンスなど）を紹介し、それらがもつ歴史的意味を批判的に検討していく。
 2)東洋の人間像を仏教や孔子の思想のなかに探究し、これと西洋的なものと対決させ、それぞれの特質を析出する。
 3)最後にまとめとして、現代の人間像の可能性の条件について考察する。とりわけ西洋のロゴス（理性）中心主義によって抑圧されつづけてきたパトスの復権という視座から論じたい。

【評価方法】 評価は筆記試験で行うが、講義内容の理解はもちろんのこと、それに対する自分自身の見解を明確に述べることが要求される。必要に応じてレポートも課す。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03004	哲学A 4	選	1～4	2	前期	赤 松 宏
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「西洋哲学と東洋哲学」

【講義内容】 先ず西洋哲学の源流を探り、その後東洋の哲学、特に仏教の哲学を概観する。西洋、東洋の哲学を概観した後、再び哲学とは何かという問題に戻り、随時必要に応じて哲学史にも言及しつつ、概論的に講義する。

【講義計画】 先ずフィロソフィアとして始まった西洋哲学の源流にさかのぼり、プラトンの哲学を中心に解説

する。次に東洋の哲学の代表として仏教を取り上げ、仏教の歴史から入り仏教の根本教説である縁起説及び諦説の解説を試みる。再び哲学とは何かという問題に戻り、哲学的問いかけの性格、哲学と科学について考える。最後に西洋と東洋（日本）の相違についてそれぞれ問答、言葉、法、理論、思想、方法論などについて考えてみる。

【評価方法】 受講状況、レポート、試験などから総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03005	哲学A 5	選	1～4	2	前期	谷口佳津宏
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 西洋哲学の源流

【講義内容】 古代哲学の二大巨人であるプラトンとアリストテレスの思想を詳しく検討することにより哲学の心髄に触れる。

【講義計画】 講義は以下の要領で進められる予定である。

- ①哲学とは何か
- ②プラトンのイデア論
- ③プラトンの想起説
- ④プラトンの四元徳
- ⑤プラトンの理想国家論
- ⑥アリストテレスのオルガノン
- ⑦アリストテレスの存在論
- ⑧アリストテレスの倫理学
- ⑨プラトンとアリストテレスの芸術観
- ⑩まとめー西洋哲学の二源泉としてのプラトンとアリストテレス

【評価方法】 筆記試験による。また、出席も重視する。

【テキスト】 テキストは用いないが、受講者数がそれほど多くなければ適宜資料を配布して進めていく予定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03012	哲学B 2	選	1～4	2	後期	田中末男
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 哲学とその周辺

【講義内容】 本講義は「哲学A」における「哲学的人間学の諸問題」のあとをうけて、それをさらに展開させる方向で進めていきたい。

「人間とは何か」という理論の問題は、「人間とはいかにあるべきか」という実践的問題へと進まざるをえない。それを扱うのが倫理学であり、それと関連して法学である。またこの問題は今日「生命倫理」という名の下で新たな問いをわれわれにつきつけているのである。

そして倫理の問題をつきつめていくと、人間を超えたものすなわち絶対者の問題につきあたらざるをえない。そこは宗教の領域である。講義ではこれらの構造をダイナミックに把握するよう努めていきたい。

- 【講義計画】
- 1)倫理と法の関係について
 - 2)生命倫理の諸問題
「脳死」「臓器移植」「対外受精」「遺伝子操作」「安楽死（尊厳死）」など
 - 3)宗教の問題
 - a) キリスト教と仏教
 - b) 宗教批判（孔子とマルクス主義）

【評価方法】 評価は筆記試験で行うが、講義内容の理解はもちろんのこと、それに対する自分自身の見解を明確に述べることが要求される。必要に応じてレポートも課す。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03014	哲学B 4	選	1～4	2	後期	赤 松 宏
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「キェルケゴール哲学研究」

【講義内容】 現代思想を論ずるとき、ニーチェとともにキェルケゴールの名を逸することはできない。實在、自由、主体性、不安、死、絶望、単独者、水平化、ルサンティマンなどはすべてキェルケゴールに淵源し、彼が独特の意味をこめて使用し、とらえ深めていった概念である。

【講義計画】 キェルケゴールの生涯を見た後、彼の哲学思想に入る。彼の思想伝達様式として直接伝達及び間接伝達の解説。その後、主要著作の解説に入る。「哲学的断片」、「おそれとおののき」、「死に至る病」、最後に實在の三段階説にも触れる。

【評価方法】 受講状況、レポート、試験等から総合的に評価する。

【テキスト】 「キェルケゴール」、工藤綏夫著、清水書院

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03015	哲学B 5	選	1～4	2	後期	谷 口 佳 津 宏
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 西洋近代哲学の主潮流

【講義内容】 デカルトに始まる近代哲学は今日のわれわれにも有形無形の様々な影響を与えている。本講義では近代の西洋哲学の代表的思想家たちを取りあげながら、彼らの思想の要諦を学ぶとともに、哲学的思考力を鍛えることが目指される。

【講義計画】 本講義で取り扱われる哲学者とその主題を以下に示しておく。

- ①デカルトー方法的破壊
- ②スピノザー汎神論
- ③ライプニッツーモナド
- ④ロックー観念の起源
- ⑤バークリー主観的概念論
- ⑥ヒュームー懐疑主義
- ⑦カントーア・プリオリな総合判断
- ⑧ヘーゲルー弁証法

【評価方法】 筆記試験による。また、出席も重視する。

【テキスト】 テキストは用いない。参考図書は授業中に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03021	文学A 1	選	1～4	2	前期	服 部 仁
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 『好色五人女』を読む

【講義内容】 西鶴は人間観察の鋭い作家である。世間の人間の行動を凝視した西鶴が執筆した『好色五人女』を読み、西鶴の浮世草子創作の方法について考察してみる。

【講義計画】 『好色五人女』の巻三「中段に見る厩屋物語」は五章構成であるので、一章三回ぐらいで読み進めていく。

【評価方法】 試験70%、平常点（出席等）30%を目安とする。

【テキスト】 神保五彌校注『校注古典叢書 好色五人女』（明治書院）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03031	文学 B 1	選	1～4	2	後 期	服 部 仁
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 『好色五人女』を読む

【講義内容】 西鶴は人間観察の鋭い作家である。世間の人間の行動を凝視した西鶴が執筆した『好色五人女』を読み、西鶴の浮世草子創作の方法について考察してみる。

【講義計画】 『好色五人女』巻四「恋草からげし八百屋物語」、つまり八百屋お七の話を一章三回ぐらいで読み進めていく。

【評価方法】 試験70%、平常点（出席等）30%を目安とする。

【テキスト】 神保五彌校注『校注古典叢書 好色五人女』（明治書院）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03061 03062	日本史 A 1・A 2	選	1～4	各2	前 期	新 井 喜 久 夫
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「耶馬台国研究史」

【講義内容】 3世紀頃、日本列島上に耶馬台国が存在したことは「魏志」倭人伝によって古くから知られていた。その所在地については、畿内大和説・九州説をはじめ多くの異説があり、いまなお、決着をみていない。この講義では時代を追って耶馬台国論がどのように展開されたかを紹介することにする。

【講義計画】 ①江戸前期までの耶馬台国説。
②新井白石と本居宣長の学説。
③明治以降の研究の発展。
④戦後の研究 a 文献研究 b 考古学的研究 c その他の研究。

【評価方法】 学期末に筆記試験を実施。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03071 03072	日本史 B 1・B 2	選	1～4	各2	後 期	新 井 喜 久 夫
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「律令国家の成立」

【講義内容】 本格的な日本の古代国家は律令国家という形をとって成立する。この国家体制は壬申の乱をへて本格化し、奈良初期に完成するが、その成立過程を、大化改新前後からあとづけて行くこととする。

【講義計画】 ①大化改新。
②朝鮮出兵とその後の動き。
③壬申の乱。
④皇 政治。
⑤公民化政策の完成。
⑥藤原京。
⑦大宝律令。
その他。

【評価方法】 学期末に筆記試験を実施。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03111 03112	西洋史 A 1・A 2	選	1～4	各2	前 期	岡 地 稔
他の科目との関連					他学科履修	重複履修 不可

【副 題】 古代から中世へ

【講義内容】 西ローマ帝国が476年に滅んだことはよく知られていても、それがローマではなく北イタリアの都市ラヴェンナを舞台にしていたことは、おそらくあまり知られてはいまい。ラヴェンナはローマ末期に帝都となった都市であり、この時期および初期中期における様々な出来事がここで繰り広げられ、初期キリスト教美術の宝庫である。この講義では、この都市ゆかりの人々であるガラ＝プラキディア・オドアケル・テオドリック・ユスティニアヌス等の事蹟や、彼らの残した文化遺産等を軸にして、古代末期から中世への移行期の歴史と文化を見ていきたい。

【講義計画】 ①ローマ末期の政治と文化
②補説 初期キリスト教美術(1)古代末期の宝石箱ーガラ＝プラキディア廟
③西ローマ帝国の滅亡ーオドアケルとテオドリック
④補説 初期キリスト教美術(2)サン・アポリナレ・ヌオーヴォ寺院
テオドリック廟
⑤ユスティニアヌス帝の再征服
⑥補説 初期キリスト教美術(3)サン＝ヴィターレ寺院
サン・アポリナレ・イン・クラッセ寺院
⑦ランゴバルトの征服からピピンの寄進ーラヴェンナの時代の終焉

【評価方法】 試験、および出席状況から評価

【テキスト】 使用せず

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03121 03122	西洋史 B 1・B 2	選	1～4	各2	後 期	岡 地 稔
他の科目との関連					他学科履修	重複履修 不可

【副 題】 情報としての史料

【講義内容】 歴史学において事実関係の確認は最も基本的なことがらです。しかしそのための材料である史料がいつでもどこでも潤沢であるとは限りません。ヨーロッパ中世史の場合、とりわけ9世紀末から10世紀までの時期は、史料上の暗黒時代といわれ、史料が極端に乏しい時期です。事実関係の確認はそうした乏しい史料状況の中で、涙ぐましいほどの努力と積み重ね、推測に推測を重ねて導き出されることも少なくありません。しかし他面、史料（データ）を分析して事実を再構成する作業は

推理小説の謎ときにも似て、知的興奮を呼ぶこともあります。この講義ではそうした例を幾つか紹介していきたいと思います。歴史関係の書物の中で1行で片付けられることがらにも、確認にいか

に多くの努力が傾けられていることかを知ること、それがこの講義の目的です。

- 【講義計画】 I コンラート1世の国王選挙(911年)をめぐる
 ①911年・カロリング朝の断絶と東フランクの進路
 ②コンラート1世王権の誕生とその舞台裏
 ③誰がどう行動したのか
 II オットー1世の王位継承(929年?)をめぐる
 ④「新史料」
 ⑤解釈
 ⑥展望

【評価方法】 試験、および出席状況から評価

【テキスト】 使用せず

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03131	美術A 1	選	1～4	2	前期	石 黒 淳
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【講義内容】 インドに始まり中国、東南アジア、日本といったアジア諸国で花開いた仏教美術について、スライドを使用しながら講義します。
 仏教美術は西紀前5～6世紀頃インド東北部に生まれた釈尊が説いた仏教を背景にした宗教美術です。仏教美術を理解するために仏教についての基礎知識と仏教に大きな影響を与えたバラモン教と呼ばれる宗教について講義します。また仏教やバラモン教を生んだインドやインド周辺国(パキスタン、ネパール、スリランカ)の風土についても講義します。

- 【講義計画】 ① 仏教美術概説
 ② 仏教以前のインドの宗教と宗教美術
 ③ I 仏教の創始者釈尊の生涯①
 ④ II 〃 ②
 ⑤ 仏教の創始者釈尊の生涯の美術(仏伝図)
 ⑥ I 釈尊の前生物語①
 ⑦ II 〃 ②
 ⑧ 釈尊の前生物語の美術(本生図)
 ⑨ I 仏像の誕生・ガンダーラ美術
 ⑩ 全体のまとめ
 以上の予定で講義を進める。

【評価方法】 筆記試験で評価する。出席を重視する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03132	美術A 2	選	1～4	2	前期	池 田 洋 子
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 日本古代美術史

【講義内容】 仏教と伴に日本に高度で本格的な芸術が流入し請来されて以来、仏教との関係を持ちながら日本古代美術は展開してきた。国家や寺院の被護下にあつて常に外来の新しい表現様式を摂取しながらも、自己の世界の独自の表現方法を求めて姿を幾重にも変化させながら日本美術が継続してきた様相について講義する。特に、飛鳥時代から平安時代後期までの各自代を代表する作品を中心にして、主題・表現様式・構図法などの特徴を分析しながら、同時代の周辺作品との関連にも言及しつつ、日本古代美術の姿を鮮明化していく。

- 【講義計画】 1. 飛鳥美術作品
2. 白鳳美術作品
3. 天平前期美術作品
4. 天平後期美術作品
5. 平安初期美術作品
6. 平安中期美術作品
7. 平安後期美術作品
8. まとめ
以上の順に進めるが、各時代は1回の講義とは限らない。

【評価方法】 講義を通して認識された日本古代美術の目指した方向について、ヴィジュアルな姿が知られよう。その姿について、レポートで論述してもらったものを評価する。

【テキスト】 カラー版《日本美術史》監修；辻惟雄 美術出版社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03141	美術 B 1	選	1～4	2	後期	石 黒 淳
他の科目との関連	美術 A 1			他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 美術 A(1)の講義に基づき、インドの古代初期仏教美術について講義します。インドの仏教美術は西紀前1～2世紀頃から運営された仏塔（ストゥーパ）の欄楯飾浮彫りから本格的に開始されます。カルカット・インド博物館が所蔵するパールフトのストゥーパの欄楯遺品やサーンチャーに現存するストゥーパの欄楯の塔門遺跡などに表現された仏伝図や本生図及び動植物の装飾浮彫りなどについて主題や表現の特色など細部にわたり講義します。

- 【講義計画】 ①インドの古代初期仏教美術の概説
②パールフトの欄楯に表された仏教美術
③パールフトの欄楯性の男神、女神像
④パールフトの欄楯性の仏伝図・本生図
⑤パールフトの欄楯貫石の装飾浮彫り
⑥パールフトの欄楯笠石の装飾浮彫り
⑦サーンチャーの遺跡について
⑧サーンチャーの塔門浮彫り・東門，南門
⑨サーンチャーの塔門浮彫り・西門，北門
⑩全体のまとめ
以上の予定で講義を進める。

【評価方法】 出席を重視し、筆記試験で評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03142	美術 B 2	選	1～4	2	後期	池 田 洋 子
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 日本中世・近代絵画史

【講義内容】 前代に形成されたやまと絵と、新たな外来絵画様式の水墨画との関わり方やその収斂の方法、更に新たな外来絵画様式である西洋画との同様な関係について造型作品を通して考察していく。

- 【講義計画】 1. 鎌倉期の作品
2. 南北朝期の作品
3. 室町前期の作品
4. 室町後期の作品
5. 戦国時代の作品
6. 桃山前期の作品

7. 桃山後期の作品
8. 江戸初期の作品
9. 江戸中期の作品
10. 江戸後期の作品
11. まとめ
(各種目とも1回の講義とは限らない)

【評価方法】 レポート
毎回の講義を通して学習した作品の分析方法に従って、作品の解説を行う。

【テキスト】 カラー版《日本美術史》監修；辻惟雄 美術出版社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03151	音楽A 1	選	1～4	2	前期	水谷昌平
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 バロック音楽からクラシック音楽について

【講義内容】 音楽史に沿ってその時代的様式と音楽美を認識し、健全で妥当な音楽観をもつよう吟味探求していききたい。

【講義計画】 上述の目標に向けて、
バロック音楽の主要な作品（ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルなど）から、クラシック音楽の主要な作品（ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン）を鑑賞し、理解を深め、その特質と私たちに及ぼす感性について考察していききたい。

【評価方法】 聴取し、鑑賞した音楽作品についての内容と吟味考察についてのレポート、音楽鑑賞の態度、出席を重視。

【テキスト】 門馬直美「西洋音楽史概説」（春秋社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03152	音楽A 2	選	1～4	2	前期	W. Dunphy
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 キリスト教音楽

【講義内容】 一概に「キリスト教音楽」と言っても、ミサ曲、オラトリオなどいくつかの種類があるが、ここでは特にミサ曲についてその構成を説明し、さまざまな作曲家による作品を紹介する。

【講義計画】 講義を進めつつ、紹介された曲を実際に鑑賞する。講義期間中にレポートを1回課す。

【評価方法】 出欠、レポートおよび期末試験により評価する。

【テキスト】 プリント配布。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03161	音楽B 1	選	1～4	2	後期	水 谷 昌 平
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 ロマン派音楽から近代音楽について

【講義内容】 音楽史に沿ってその時代的様式と音楽美を認識し、健全で妥当な音楽観をもつよう吟味探求していきたい。

【講義計画】 上述の目標に向けて、
ロマン派音楽の主要な作品（シューベルト、ウェーバー、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン……）から、近代音楽の主要な作品を鑑賞し、理解を深め、その特質と私たちに及ぼす感性について考察していきたい。

【評価方法】 聴取し、鑑賞した音楽作品についての内容と吟味考察についてのレポート、音楽鑑賞の態度、出席を重視。

【テキスト】 門馬直美「西洋音楽史概説」（春秋社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03162	音楽B 2	選	1～4	2	後期	W. Dunphy
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 キリスト教音楽

【講義内容】 キリスト教音楽のうち、特にレクイエム（死者ためのミサ曲）に注目し、モーツァルト、ベルリオーズ、ブリテンなどの作品を紹介する。

【講義計画】 （音楽Aに同じ）

【評価方法】 （音楽Aに同じ）

【テキスト】 （音楽Aに同じ）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03171	法学A 1	選	1～4	2	前期	大 川 陸 夫
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 裁判で争われた事件や報道された時事問題を手がかりに現代日本法の理論と実態を考察する。

【講義計画】

1. 「権利のための闘争」
2. 男女の共生
3. 家族と国家
4. 教育を受ける権利
5. 会社で働く人の権利
6. 市民運動の自由
7. 知る権利
8. プライバシー
9. 環境の保護

10. 議会制民主主義
11. 裁判制度
12. 政府と官僚制
13. 日本の君主制
14. 戦争と平和

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03172 03181	法学A2・B	選	1～4	各2	前期 後期	小 山 剛
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 「事例で学ぶ法学入門」

【講義内容】 法律的思考と若干の法律知識の習得を目的とする。裁判所の判例や社会的に注目されている法律改正などの具体的事例を材料に、それぞれの賛否両論を紹介しながら、問題の所在を発見し、それを法的に考えることを学ぶ。

【講義計画】 まず大まかな法学概論の知識を講述したのちに、ケース・スタディを行う。分野としては、次を予定しているが、重要な判決などが出た場合には一部差し換える。

- ・「契約」自由とその限界
- ・親族・相続法改正（夫婦別姓、女性の再婚禁止期間、非嫡出子差別、など）
- ・刑罰はなぜ許されるのか
- ・刑法の堕胎罪規定の意義および問題点（女性の中絶の権利？）
- ・日本人留学生射殺事件と「陪審制」
- ・校則と人権（バイク禁止、髪形規制、格技受講拒否と退学処分、など）
- ・さまざまな選挙制度とそのねらい

【評価方法】 定期試験のほか、講義時間中にレポートを課す（2回程度）。

【テキスト】 小型の六法。数種類あるが、それぞれの特徴については開講の際に説明する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03173	法学A3	選	1～4	2	前期	高 橋 広 次
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 『安定法概観』

【講義内容】 これから初めての法を学ぼうとする者への入門として、「法の概念」「法の体系」「法の静態・動態」「各実定法領域の概観」を行い、法特有の思考様式に触れることを目標とする。

【講義計画】 講義計画は以下の順序に従う。

- ①他の社会規範と比較して、まず実定法の特徴を明らかにする。
- ②法は一まとまりの体系として内部に有機的連関を保っている。そこで、その形式や目的や効力の程度・範囲等様々な角度からする分類を通じて、各々の法領域の種別を知る。
- ③安定法はどのようにして形成されるか、またこのようにして成立した法が今度はどのようにして実現されるかその構造を明らかにする。
- ④我々の法生活においてとりわけ重要と思われる実定法として、憲法・民法・訴訟法・社会法・国際法の基礎的知識を修得する。

【評価方法】 成績の評価に際しては、定期試験の結果に加えて、毎回の講義の出席を重視する。

【テキスト】 ノート講義を主として進めていくが、参考書として

- ①『法学入門』国藤重光、現代法学全集1 筑摩書房
- ②『新法学12講』阿南成一編 エフェー出版
を勧める。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03191 03192	日本国憲法 1・2	選	1～4	各2	前期 後期	小 林 武
他の科目 との関連	教職単位取得のための必修科目			他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 [日本国憲法を実際の事例をとおして生きた姿において学ぶ]

【講義内容】 憲法とは何か、また憲法は私たちの現実の生活の中でどのような働きをしているかを知るため、日本国憲法について、その成り立ちと歴史、国民主権と象徴天皇制、平和主義、人権の保障、統治の仕組みについて述べる。
講義はつねに、現在進行中の具体的な憲法問題をとりあげて、わかりやすいものにした。
受講生諸君が、日常生起する憲法問題・法律問題や広く政治・社会の事象に関心をもって出席するよう期待したい。

【講義計画】 ほぼ、次のような項目に即して講義をすすめる。

1. 憲法とは何か
2. 近代憲法と現代憲法
3. 明治憲法と日本国憲法
4. 国民主権と象徴天皇制
5. 平和主義
6. 人権保証のしくみ
7. 平等と自由
8. 社会権
9. 選挙・国会・内閣
10. 裁判と違憲審査
11. 地方自治の保証

【評価方法】 テストで評価する予定である。

【テキスト】 小林武＝三並敏克『いま日本国憲法は』（法律文化社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03201 03202	政治学 A 1・A 2	選	1～4	各2	前期	吉 田 達 志
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 冷戦の本質とその歴史

【講義内容】 冷戦後の世界における日本の位置と役割を理解させる目的のために、米ソの対立を軸とする冷戦の本質と歴史について、①冷戦の起源、②冷戦の展開、③冷戦の終結の順序に従って講義する。

【講義計画】 ①政治の本質（ホッブスの理論を中心に）
②ソ連による東欧の共産化と西側の対応
③ベルリン封鎖と朝鮮戦争
④ソ連の平和攻勢とダレス外交
⑤核の時代とキューバ危機
⑥国際政治の多極化
⑦米ソの核対決
⑧日本の安全保証と国際貢献

【評価方法】 試験成績及び出席状況

【テキスト】 使用せず

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03211 03212	政治学 B 1・B 2	選	1～4	各2	後期	吉 田 達 志
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 現代日本の政治問題

【講義内容】 現代日本社会が直面する政治問題について、それを日本近代の歴史と文化の中に位置づけて講義する。特に憲法をめぐる問題は、現代日本社会の問題性を解明するための鍵になる点を考慮しながら論を行う。

【講義計画】 ①国際化の時代の日本文化
②大日本帝国憲法の成立過程と特徴
③日米戦争
④日本国憲法の成立過程
⑤国民主権と天皇
⑥第九条と日本の防衛
⑦政教分離と信教の自由
⑧三権分立制の変容
⑨民主主義の陥穽

【評価方法】 試験成績及び出席状況

【テキスト】 参考書、吉田達志著「日本近代の素描」（高文堂出版社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03221	文化人類学 A	選	1～4	2	前期	中 込 睦 子
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 文化人類学の基礎概念

【講義内容】 文化人類学の発端は、19世紀西欧社会が「異人（異文化の担い手）」たちと出会い、その文化を（彼らなりに）何とか理解しようとしたことにはじまる。この過程で、先人たちは人間と文化について多くの知識を蓄え、様々な理論を展開してきたが、それは未知なる世界を知る道筋であると同時に、人々自身の「内なる」未知の世界を発見する道筋でもあった。本講義では、文化人類学の基礎的概念を学ぶ中で、異文化との出会い、そして私たち自身の文化との出会いを体験することを目指す。

【講義計画】 文化人類学とは（文化人類学の諸分野）
人間と文化（文化の象徴制）
文化人類学の方法（異文化の発見とフィールドワークという方法）
環境と文化（いくつかの民族誌から）
人間社会の基礎構造（婚姻・家族・親族）
文化の変容
以上のような計画で、講義を行う。講義主体ではあるが、小レポートなどを通じて各自の意見発表の機会を随時設けるので、受講者には講義内容を自分自身の知識・体験に照らして（自分自身を一つのサンプルとして）常に検証する態度を期待する。なお、VTRを使用して、書くテーマを立体的に捕らえられるように配慮したい。

【評価方法】 定期試験の成績と提出された小レポート（随時）を総合して判断する。

【テキスト】 とくに指定しないが、テーマに即した資料を配布する。また、参考文献リストを講義の初めに配布し、また講義の中でも随時文献を指示するので各自入手して目を通すこと。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03231	文化人類学 B 1	選	1～4	2	後期	中 込 陸 子
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 家族の比較文化論

【講義内容】 異文化を理解するということは、同時に自分自身の文化を理解すること、つまり私たち自身の「当たり前」を問い直すことでもある。本講義では、家族という私たち自信にとって身近な体験を素材として、異文化理解の課題と方法について具体的に考えてみたい。

【講義計画】 家族の多様性と比較の方法
「家族」の概念をめぐる諸問題
民族的生殖観と「血縁」観
親子関係と育児様式
結婚観と夫婦関係
ライフサイクルと家族理念
東アジアの祖先祭祀
以上のような計画で、講義を行う。講義主体ではあるが、小レポートなどを通じて各自の意見発表の機会を随時設けるので、受講者には講義内容を自分自身の知識・体験に照らして（自分自身を一つのサンプルとして）常に検証する態度を期待する。なお、VTRを使用して、書くテーマを立体的に捕らえられるように配慮したい。

【評価方法】 定期試験の成績と提出された小レポート（随時）を総合して判断する。

【テキスト】 とくに指定しないが、テーマに即した資料を配布する。また、参考文献リストを講義の初めに配布し、また講義の中でも随時文献を指示するので各自入手して目を通すこと。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03241 03251	社会学 A 1・B 1	選	1～4	各2	前期 後期	阪 本 俊 生
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 近代化と社会学理論

【講義内容】 近代化と社会の変容という観点から社会学の諸理論を見てゆく。このことを通じて、社会学がもっているさまざまな問題意識を近代化との関連で概観してゆく。

【講義計画】 講義する具体的な内容はほぼ次の通り。
ただし、順不同。
社会学的問題意識の誕生について
自殺と社会：デュルケムの『自殺論』
近代化と社会の可視化の試み
社会学の実証主義
宗教と近代化：ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』にみる内在化された近代の物語
ナチズム：フロムの『自由からの逃走』が見ようとした近代化とナチズムとの関連
権威主義的パーソナリティ
個人主義と私秘化：エリアスの諸著作から私秘化と個人主義批判
他者思考型：リースマンの『孤独な群衆』とセネットによるその批判
ポストモダン社会における社会関係とナルシシズムの問題
近代化と欲望：ジラルの『欲望の現象学』にみる近代人の欲望と人間関係
近代化と嫉妬、羨望と鎮静問題
近代社会と経済：K. ボランニーの社会論とデュビュイとデュムシエルの経済人類学
都市と社会：ジンメルからゴフマン、ロフランドに至るミクロ都市社会学と近代化の問題

【評価方法】 学期末に記述式の試験を行なう。

【テキスト】 なし。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03242 03252	社会学 A 2 ・ B 2	選	1～4	各2	前 期 後 期	森 下 伸 也
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 パラドックスの社会学

【講義内容】 われわれが日々暮らす日常生活の世界には、制度という目に見えない仕掛けがいたるところに張りめぐらされている。社会学とは、この目に見えない仕掛けを、ひとつひとつ丹念かつ執念深く掘りおこしていく作業にはかならない。この作業には、日頃自明なものとして寄りかかっているものははずされて生じる揺らぎと眩暈がともなうが、一方では、制度という拘束衣を脱ぎすて「異界」にワープすることから生じる自由と解放の感覚がともなっている。本講義では、日常卑近な事例をもとにして、異界ワープの基本作法たる社会学特有の逆説的思考 (paradoxical thinking) 方法を伝授し、それを生活に活かすコツを体得していただく。ジャズとおなじく、大学の勉強も「スイングしなけりゃ意味がない」。受講生諸君が、シャープにスイングする逆説的思考のダイゴ味を堪能しつつ、視界のはるばるとひらけゆくこと、これが本講義の目標である。

【講義計画】 前期においては、日常的な素材を通社会学の理論を解説し、逆説的思考の多様なメリットを伝授する。後期においては、「個人主義」「笑いとユーモア」「生と死」という3つの具体的なテーマを講じることによって、逆説的思考の意義とキレ味をご披露する予定である。

【評価方法】 前・後期2回、試験をおこない、その得点総計によって成績を評価する。なお、成績評価にあたっては、「試験弱者」救済のため「出席点」を加味して考慮する場合がある。

【テキスト】 森下、宮本、君塚「パラドックスの社会学」新曜社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03261	経済学 1	選	1～4	2	前 期	林 尚 志
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 「経済学を使って考える」

【講義内容】 本講義では、経済に関する様々な疑問を取り上げ、これに対して解答の手がかりを与えていく。たとえば、「景気がいったん悪くなると、なかなか回復せず、君たちの就職活動に間に合わないかも知れない。これはなぜか?」「貿易収支は大幅な黒字で困っているのに、政府は財政赤字を減らすのに懸命だという。一体、日本は黒字なのか、赤字なのか?」「輸入米が話題になったが、輸入が自由化すると何が起こるのか?」「資源環境問題が深刻化していると言うが、生きていくためには石油も使うし、ゴミも出る。どうすればよい?」等々……

これらをともに考えながら、(1)経済学は、我々の暮らしの重要な側面である“経済”をどのようにとらえているのか? (2)経済学は、現代社会のかかえる課題に対して、どの程度解決の糸口を与えてくれるのか? といった点を学んでいこう。

【講義計画】 予め1講義当たり教問からなる疑問点をまとめた教材プリントを配布し、これらの疑問に答えていく形で講義を行う。テキストの11章までの内容をカバーすることが一応の目標であるが、出席者の理解度に基づいて進度を調整するつもりである。

【評価方法】 定期試験、および随時行われる予定の小テストに基づいて評価を行う。

【テキスト】 伊藤元重著『入門 経済学』(日本評論社)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03271	数学A	選	1～4	2	前期	春 藤 修 二
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「数とは何か」

【講義内容】 諸君は高校までに実に多くの数学的知識を学んでいる。しかしたとえば有理数とはどのような数でうるか適確に答えられない人が多い（考えてみて下さい）。よく知っている対象（数・図形）を用いて、数について考えることを講義の目標としたい。従って数学の好き嫌い、予備知識などは全く問わないので、これ迄受けてきた数学教育のまとめとして受講を勧めたい。但し考えることを忘れないでほしいと思います。

【講義計画】 上記の目標に向けて、次の項目に従って授業を進める。
 I. 数について
 ①数のイメージ
 ②数体系の拡ち
 ③有理数・実数
 ④数とは何かーツェノンのパラドクスをめぐって
 II. 図形についてーユークリッド「原論」第一巻をたどる。
 特に前半部分は経済学部、経営学部で必修数学科目を履修する諸君にも有用と思われる。数学が嫌いな諸君は併行して履修することが望ましいと担当者は考えます。

【評価方法】 ・定期試験を行う。
 ・これまで（広い意味での）数学書を一冊読み、感想をレポートとして提出することを恒例としてきました。半年科目に変わりましたが、続けたいと考えています。

【テキスト】 特になし

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03281	数学B	選	1～4	2	後期	春 藤 修 二
他の科目との関連	数学Aを履修していることが望ましいが必須ではない			他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「数学とは何か」

【講義内容】 「数学A」では数学が担う対象として数と図形を取り上げた。本講では数学の営みを、大まかに数学史の流れを追う中で考える。今日の数学教育がよってきた由来についてもふれたい。

【講義計画】 数学の歴史の中で最も大きな転回点となったと思われる次の3項目をたどる。
 I. ギリシャ数学ー紀元前3世紀を中心に
 II. 微分積分学の誕生ー17・18世紀の数学
 III. 現代数学の成立ー集合論と現代数学
 最後に数学と数学教育について議論したいと思います。
 ・数学的知識は全く前提としていません。しかし全くのお話にならぬよう具体的問題を取り入れる工夫はしたいと考えています。
 ・情報管理学科生で将来「数学」の教員免許状を取得希望する諸君には履修を勧めます。

【評価方法】 基本的には定期試験の結果による。

【テキスト】 特になし

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03285	数学（再）	必	2～4	4	通 年	春 藤 修 二
他の科目との関連	旧カリキュラム「数学（B）」を履修し単位を取得できなかった者を対象とする。			他学科履修		重 複 履 修 不可

【副 題】 [微分積分学の基礎]

【講義内容】 微分積分学はその思想と内容の豊富さによって教養の数学にふさわしい。高校数学の主要な項目になっているのもそのせいであるが、それがまた“数学落ちこぼれ”の大きな原因にもなっているようである。本講義は既に「数学（B）」を履修していることを考慮して、微分積分学の基礎概念である「極限」の考え方を理解することを目標として、知識ではなく、思考の訓練という面を強調していきたい。

【講義計画】 前期は
「数と関数について」
後期は
「極限について」
講義を進める。毎回内容確認の小テストを行う予定。

【評価方法】 出席を重視する。朝1・2時限に間に合うように一年間出てくることが基本である。毎時の小テストの結果も勿論評価に加える。これらと前・後期の定期試験の結果との総合評価により成績をつける。

【テキスト】 特に指定はありません。必修「数学（B）」で用いたものを各自手元にもっていて下さい。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03291	物理学A	選	1～4	2	前期	柏 村 昌 平
他の科目との関連				他学科履修		重 複 履 修 不可

【副 題】 光と粒子の世界の物理学

【講義内容】 光（可視光）の光線、光速、干渉と回折などの現象の説明から、電磁波の性質や粒子性まで説明する。
次ぎに、物体の運動に関する多くの法則の中の基本的な考えと法則を説明する。

【講義計画】 ほぼ次ぎのテーマの順に講義する。
光の物理学の授業内容
1)光線の性質と法則 2)光の速さ 3)光の波動性 4)光の干渉と回折 5)光の粒子性と二重性 6)相対性原理
粒子の物理学の授業内容
1)力と力のモーメント 2)運動と運動量 3)放物体の運動 4)仕事とエネルギー 5)ばねの運動 6)惑星の運動 7)電磁場と電子の運動 8)剛体の運動 9)電子の波動性と二重性
板書とともに、演示実験を交えながら説明する。高校でいどの数学も用いることもあるが、難しい計算を主目的とするものではない。

【評価方法】 筆記試験（主）とリアクションペーパー（副）。

【テキスト】 配布プリントと板書。参考書は随時指示。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03301	物理学B	選	1～4	2	後期	柏 村 昌 平
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 電磁気現象と物質の性質の物理学

【講義内容】 静電誘導と磁石を例に静電磁気現象を、LCR回路を例に電流や電磁誘導現象を、最後に電磁波までの電磁場を説明する。

次に、熱現象から始めて、物質の構造、原子の内部の構造、分子の性質、原子核と放射線（放射能）、原子核反応（原子力）など目に見えない世界の物理現象を説明する。

【講義計画】 ほぼ下記のテーマの順に講義する。

電磁気の物理学の授業内容

1)静電気現象と電荷 2)磁石と磁場 3)電流と回路 4)電流と磁場と電場 5)電磁波とはなにか
物質の性質の物理学

1)温度と相変化 2)熱と仕事 3)エネルギー問題とはなにか 4)原子の内部 5)光の放出と吸収
6)化学変化と分子 7)放射線とはなにか 8)原子核反応と原子力

板書とともに、演習実験を交えながら説明する。高校でいどの数学も用いることもあるが、難しい計算を主目的とするものではない。

【評価方法】 筆記試験（主）とリアクションペーパー（副）。

【テキスト】 配布プリントと板書。参考書は随時指示。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03311 03312	生命自然史1・2	選	1～4	各2	前期 後期	江 田 信 豊
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 40億年の昔、私たちの地球に生命が誕生しました。地球が金星や火星とは違う運命をたどろうとしていた時期です。そこに誕生した最初の生命体とはどのようなものであったのでしょうか。近年オーストラリアやアメリカを中心として30億年以上昔の生物化石についての研究が進んでおり、生命誕生のシナリオが説き明かされようとしています。また、20億年前には地球上にはじめて性（オス・メス）の区別のある生物が出現しました。

一方脊椎動物6億年の歴史にもいろいろな新事実が明らかにされてきています。最初の魚類はどのような形態をしていたのでしょうか？魚類から両生類への進化により動物は陸上へと進出しました。魚類から両生類への陸上の進出、つまり海から陸への生活圏の拡大は同時に乾燥への適応の挑戦の歴史でもありました。その後動物たちは乾燥した陸上のありとあらゆる場所で生活できるように進化しました（適応放散）。この急激な繁栄の後、恐竜たちは6500万年前に突然姿を消しました。このような問題に近年大胆な仮説が立てられてきています。人類は恐竜のように絶滅してしまうのでしょうか？人類はいったいどんな動物なのでしょう。恐竜の繁栄と絶滅のシナリオから人類のたどってきた進化の道筋とこれからが浮き彫りになります。

【講義計画】

1. 導入
生命の起源
2. 太陽系の惑星地球の起源
3. 地球の大気と海洋の起源
アミノ酸からタンパク質→RNAからDNAへ
4. 地球の大気と海洋の起源
ラン藻類の出現からもたらした地球環境への影響
5. 性の出現と有性生殖の意義
6. 魚類の出現とその進化
7. 海から陸への進出
8. ジュラシックワールド
恐竜の作り方教えます！
9. 恐竜の絶滅

10. 哺乳類の進化
11. 人類の人類たるゆえん
12. オスとメスの生活戦略

【評価方法】 レポート

【テキスト】 中村運『水の生物学』培風館

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03321 03322	生命科学1・2	選	1～4	各2	前期 後期	江 本 純
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 皆さんは“ジュラシック・パーク”という映画をご存知でしょう。化石の中から遺伝子を取り出して、生きた恐竜を復元する。“生命をつくるなどとてもない”と思っていたあなたは、この映画をみて、“こんな子があったのか”と、その意外さと巧妙さに魅了されたと同時に、空恐ろしさを感じたことでしょう。

まずは“ジュラシック・パーク”の一部をみながら、“生命の作り方”を学びましょう。もちろん生物をつくりだすなど、夢のまた夢ですし、やってはいけないこと(?)なのかもしれませんが、この“生命の作り方”は現実味をおびてまいります。その秘密は、今はやりのDNAつまり遺伝子にあります。

遺伝子とは、細胞を構成するさまざまなタンパク質をつくるための設計図です。私たち人間をつくる設計図も、もちろん遺伝子DNAからできています。この人間の設計図を広げますと、約2mくらいになるそうです。大腸菌の設計図はほんの数mmです。大腸菌よりも人間の方がはるかに複雑にできていますから、これは当然なのでしょう。ところが人間よりもちょっぴり単純なカエルの設計図は、なんと20mを超えます。カエルが人間よりも10倍も複雑であるとはとても考えられません。でも設計図の大きさは10倍なのです。いったいどうなっているのでしょうか。遺伝子はたしかに設計図ではありますが、まだわからないこともいっぱいあるのです。最近の生物学の急速な発展から、どうやら遺伝子DNAは私たちの寿命や老化、そしてガンにも関係しているらしいのです。

この授業では、遺伝子もっている謎の部分解きあかしながら、遺伝子がどのようなもので、また人間社会がこの遺伝子をどのように利用しようとしているのかを学んでいきます。文化系の皆さんは“遺伝子などは理科学の問題”と考えてはいませんか。今や遺伝子は社会・文化の問題となりはじめています。皆さんが社会で働いていく上で、この知識はきっと役にたちます。是非とも履修しましょう。

【講義計画】

1. 授業内容の紹介
生命科学の真舞台、ひろがるバイオテクノロジー産業
2. タンパク質をつくる装置：細胞
生命の作り方：ジュラシック・パークとその原理（ビデオ40分）
3. タンパク質合成系と遺伝子
4. 遺伝子という資源：身近なバイオテクノロジー（ビデオ30分）
バクテリアって何だ。下水管の中は原始地球
5. エイズ（AIDS）とエイズ・ウイルス（HIV）
奇妙なウイルス“レトロウイルス”
ウイルスは生命か？ ウィルスとバクテリア
6. ヒトゲノム計画（ビデオ40分）
7. “遺伝子考古学？”：遺伝子にきざまれた歴史
遺伝子も進化する。いえ、遺伝子が進化するのです。
病気の多くは遺伝子が原因、近未来の薬は遺伝子
プライマシーとしての遺伝子
9. 寿命・老化、そしてガン
細胞は死なない。でも細胞は自殺する。
10. ゾウリムシに性はあるの？ えっ！8つも、男と女と…？
遺伝子修復と細胞分裂、若返りと性
生物はなぜ死ぬの？
11. 生物の体に潜む生物：さまざまな共生生物
12. ミクロの生活圏と地球環境：共生生態系の構造

【評価方法】 レポート

【テキスト】 中原英臣・佐川峻著『DNAの陰謀』（太陽企画出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03331 } 03333 03341 } 03343	基礎生物学セミナーA 1・A 2・A 3 基礎生物学セミナーB 1・B 2・B 3	選	1～4	各4	前期 後期	江 本 純 江 田 信 豊
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 この授業は、他の文化系の大学にはほとんどない理科実験をふんだんに取り入れたプログラムです。毎回の実験をマニュアルに沿って勉強していくことで皆さんが苦手と感じている生物学の基本知識が自然と身につくように構成されています。細胞の染色体や減数分裂、動植物の体のしくみ、また電子顕微鏡（知らない人も多いと思いますが、南山大学には電子顕微鏡があります。）の世界などを一度自分で見てみたいと思っている人は是非とも受講して下さい。実験は多少とも時間がかかりますが、生命の神秘を楽しく勉強してみましょう。基礎生物学セミナーA、Bはそれぞれ単独に履修することもできます。

基礎生物学セミナーAは細胞に焦点をあと、生命の最も基本的な活動である原形質流動、細胞分裂、受精、発生を実際に観察します。この実験観察では細胞代謝、生命の条件、世代交代、遺伝子、共生、形態形成、細胞分化という基本的な現象を学び、生命の生と死が生命40億年の歴史の産物であることを知るでしょう。

基礎生物学セミナーBでは固体の体のメカニズムをマクロそしてミクロの世界としてとらえます。また、色素分析なども行います。無脊椎動物や脊椎動物の解剖の観察実験では実際にモンシロチョウやウシガエルを材料にして自ら解剖を行い動物のしくみを理解できます。特に電子顕微鏡での観察では全受講生に操作を行ってもらいますので、たぶんあなたの生涯で超ミクロの世界を覗くただ一度のチャンスになるでしょう。

皆さんの世紀“21世紀”はバイオの時代でもあります。“バイオ”は私たちの生活・文化・精神を今まさに大きく変えようとしています。文化系の皆さんにとっても今までは“生物学”という遠い世界だったものが“バイオ”となっておしよせています。これから皆さんにバイオテクノロジーの基礎知識は大変重要なものとなるでしょう。

【講義計画】

基礎生物学セミナーA

1. 実験における諸注意、顕微鏡の操作、スケッチの方法
2. 細胞と原形質流動：タマネギの表皮細胞
3. 植物組織：ムクゲの2年茎断面
4. 体細胞分裂と減数分裂
5. 細胞分裂の起源と意味
6. 体細胞分裂：タマネギの根端細胞
7. 減数分裂：バッタの精巣
8. 染色体：ユスリカ幼虫の唾腺
9. 生物の世代交代と性
10. 原生動物：シロアリの腸内共生微生物
11. 発生と形態形成：ウニの卵発生
12. 多細胞動物の細胞分化：ヒドラ

参考書：中村 暎『細胞の起源と進化』培風館

基礎生物学セミナーB

1. 実験における諸注意、実体顕微鏡の操作、スケッチの方法
2. 実体顕微鏡の操作：花の解剖
3. 植物の色素分析：ペーパークロマトグラフィーによる色素類の分離（シロツメクサ）
4. 電子顕微鏡：デモ、試料作成
5. 電子顕微鏡：操作と写真撮影（花粉と毛髪）
6. 電子顕微鏡のしくみ
7. 無脊椎動物と脊椎動物
8. 無脊椎動物の解剖：モンシロチョウの外部形態
9. 無脊椎動物の解剖：モンシロチョウの内部形態
10. 脊椎動物の解剖：ウシガエルの内部形態
11. 脊椎動物の解剖：ウシガエルの筋肉系
12. 脊椎動物の解剖：ウシガエルの骨格系

参考書：田中敬一『超ミクロ世界への挑戦』岩波新書

岡まりな『動物の系統と個体発生』東京大学出版会

【評価方法】 レポート：毎回の実験をマニュアルにそっておこなっていくと自動的にできあがります。試験はありません（A・B共通）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03351 03352	化学１・２	選	１～４	各２	前期 後期	山 本 正 康
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 我々の生活に関係する化学物質について－くすり・ビタミン・食品添加物など－

【講義内容】 現代の我々の身のまわりには、いろいろな化学物質であふれている。地球上の全ての物質は化学的に表現できるが、人工的な化学合成食品という意味で考えても、我々の衣食住の全てにわたって人工的なものが入っている。

この講義では、特に身近な医薬品、ホルモン、ビタミン、および食品添加物を中心に講義する。まず、医薬品について、その開発の歴史、種類、体の中での役割、最近の発展等の他いろいろの問題点について概観する。そして、特になじみの深い抗生物質、睡眠薬、鎮痛剤、麻薬およびホルモン剤などについて副作用も含めて述べる。

くすりと関係が深く、健康を保つためには無くてはならないビタミンについても発見の歴史、種類および役割について解説する。

ついで、最近の食品ではほとんどのものに含まれている食品添加物について、その種類、用途および問題点について講述する。

【講義計画】 まず、２回程度身近な化学物質について概論を述べる。つづいて、くすりについてをホルモンを含めて６回ほど解説する。次に、ビタミンについて３回、食品添加物について２回およびその他の物質１回、という予定で行う。

【評価方法】 主として筆記試験で評価する。出席も加味する。

【テキスト】 特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03361	心理学A	選	１～４	２	前期	泉 ひ さ
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 心理学の基礎知識として心理学の定義、歴史、学習目標、研究方法、研究領域について解説し、更に人間の精神機能の基礎となる感覚と知覚及び知的面に関する学習、記憶、知能等の内容を説明すると共に、各心理現象の発達の特徴についても言及する。

【講義計画】 上述の内容について主として講義形式をとるが、内容によってはVTRや実験を施行する。

【評価方法】 学期末テスト、レポート、出席状況等から総合的に評価する。

【テキスト】 泉ひさ著『心理学入門：発達を中心として』（ナカニシヤ出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03371	心理学B	選	１～４	２	後期	泉 ひ さ
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 人間の行動の原動力として考えられる欲求と感情、そして行動の多様性の基礎になる性格について

て解説すると共に、青年が体験する適応の諸問題（大学生活、就職、性と性差、恋愛と結婚）について実態調査にもとづいて解説する。

【講義計画】 上述の内容について主として講義形式をとるが、内容によってはVTRや実験を施行する。

【評価方法】 学期末テスト、レポート、出席状況等から総合的に評価する。

【テキスト】 泉ひさ著『心理学入門：発達を中心として』（ナカニシヤ出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03381 03383	科学技術論A 1・A 3	選	1～4	各2	前期	小 林 傳 司
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 文明の中の科学

【講義内容】 科学技術による知は、環境汚染・自然破壊などの問題に典型的に現れているように現在さまざまに深刻な問題を引き起こしている。しかしながら同時に現代人が科学技術からさまざまな恩恵をこうむっているのも事実であり、単純に「原始自然に帰れ」といった論議ができないことも確かである。

現在の科学技術は、19世紀のヨーロッパに成立したものが、日本を始め世界各地に伝わったものであり、その性格はヨーロッパの近代文明と、その中でもキリスト教と密接な関連を持っている。そのような歴史的・文化的な背景のもとでの科学技術についての理解を目指す。

【講義計画】 科学も技術も、それを広義に理解すれば非常に古い歴史を持っている。しかし今日の科学技術は19世紀に成立したものであり、極端な言い方をすればそれよりも前には「科学者」は存在していなかった。講義では、ヨーロッパにおける科学技術の成立について説明し、それを幕末から明治期以降の日本がどの様に受容したかを比較文化的な観点から説明する。

そして、科学技術を一つの典型とする「文明」の普遍性の問題について、キリスト教との関係、文化多元主義、文化相対主義の問題との関連から検討を加え、多元主義と寛容の問題、それと結び付けて世界における日本文化の性格について考えたい。

【評価方法】 定期試験（筆答）による。

【評価方法】 村上陽一郎 文明の中の科学 青土社

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03382	科学技術論A 2	選	1～4	2	前期	横 山 輝 雄
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 文明の中の科学

【講義内容】 科学技術による知は、環境汚染・自然破壊などの問題に典型的に現れているように現在さまざまに深刻な問題を引き起こしている。しかしながら同時に現代人が科学技術からさまざまな恩恵をこうむっているのも事実であり、単純に「原始自然に帰れ」といった論議ができないことも確かである。

現在の科学技術は、19世紀のヨーロッパに成立したものが、日本を始め世界各地に伝わったものであり、その性格はヨーロッパの近代文明と、その中でもキリスト教と密接な関連を持っている。そのような歴史的・文化的な背景のもとでの科学技術についての理解を目指す。

【講義計画】 科学も技術も、それを広義に理解すれば非常に古い歴史を持っている。しかし今日の科学技術は19世紀に成立したものであり、極端な言い方をすればそれよりも前には「科学者」は存在していなかった。講義では、ヨーロッパにおける科学技術の成立について説明し、それを幕末から明治期以降の日本がどの様に受容したかを比較文化的な観点から説明する。

そして、科学技術を一つの典型とする「文明」の普遍性の問題について、キリスト教との関係、

文化多元主義、文化相対主義の問題との関連から検討を加え、多元主義と寛容の問題、それと結び付けて世界における日本文化の性格について考えたい。

【評価方法】 主として定期試験（筆答）による。

【評価方法】 村上陽一郎『文明の中の科学』（青土社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03391 03393	科学技術論 B 1・B 3	選	1～4	各2	後期	小 林 博 司
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 社会現象としての科学

【講義内容】 近代科学は、現代社会に非常に大きな影響を与えており、それが多くの人々の関心を引いてきた。しかし科学の活動がどのようなものであるかについての一般人のイメージは、必ずしも現実を正しく反映しているとはいえず、多くの虚像が含まれている。特定の分野の業績やの分野の個別的な知識ではなく、科学全体にわたる一般的な主題・問題点を取り上げて、科学ならびに科学と社会との関係についての全体的展望を得ることを目標とする。

【講義計画】 はじめに、科学がどのようなプロセスを経て発展していくかを説明する。科学の知識は固定したものではなく、たえず拡張や修正が行われている。とりわけ17世紀に成立したといわれる近代科学の性格、科学技術と軍事との関わりに見られるような社会との関係の中でそれを明らかにする。次に、科学者集団の内部構造について、職業科学者の実際のあり方と一般人の持つ理想化されたイメージのずれを明らかにすることを通して説明する。そして以上の検討をもとにして、社会の中の専門家としての科学者に対して、一般人はどの様に対応すべきかという観点から、権威の問題、研究の方向付けや規制の問題などについて論じる。

【評価方法】 定期試験（筆答）による。

【評価方法】 バーンズ 社会現象としての科学 吉岡書店

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03392	科学技術論 B 2	選	1～4	2	後期	横 山 輝 雄
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 社会現象としての科学

【講義内容】 近代科学は、現代社会に非常に大きな影響を与えており、それが多くの人々の関心を引いてきた。しかし科学の活動がどのようなものであるかについての一般人のイメージは、必ずしも現実を正しく反映しているとはいえず、多くの虚像がその中には含まれている。特定の分野の業績やその分野の個別的な知識ではなく、科学全体にわたる一般的な主題・問題点を取り上げて、科学ならびに科学と社会との関係についての全体的展望を得ることを目標とする。

【講義計画】 はじめに、科学がどのようなプロセスを経て発展していくかを説明する。科学の知識は固定したものではなく、たえず拡張や修正が行われている。とりわけ17世紀に成立したといわれる近代科学の性格、科学技術と軍事との関わりに見られるような社会との関係の中でそれを明らかにする。次に、科学者集団の内部構造について、職業科学者の実際のあり方について、一般人の理想化されたイメージとのずれを明らかにすることを通して説明する。そして以上の検討をもとにして、社会の中の専門家としての科学者に対して、一般人はどの様に対応すべきかという観点から、権威の問題、研究の方向付けや規制の問題などについて論じる。

【評価方法】 主として定期試験（筆答）による。

【評価方法】 バーンズ『社会現象としての科学』（吉岡書店）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03401 03402	地球科学 A 1 ・ A 2	選	1～4	各2	前 期	濱 健 夫
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 海洋システムと地球環境

【講義内容】 水惑星「地球」はその70％が海洋におおわれている。この海洋は、地球環境の維持に対して大きな役割を持つ。それは、海洋を満たしている水の特性によるものが大きい。また、地球温暖化に関連して問題となっている大気中の二酸化炭素の増加に関しても、海洋は人為起源の二酸化炭素の約半分を吸収することで、地球温暖化の速度を遅らせていると考えられている。

本講義では、この海洋を中心に、海洋を物理、化学、生物学的側面から概説するとともに、近年の地球環境の諸問題と海洋との関わりについても触れる。

【講義計画】

- ・ 海洋の物理・化学的側面
- ・ 海洋における物質循環
- ・ 地球環境の諸問題と海洋を中心に、講義を進める予定。

【評価方法】 講義内容に関する試験。

【テキスト】 特定のものは使用せず、資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03411 03412	地球科学 B 1 ・ B 2	選	1～4	各2	後 期	大 畑 哲 夫
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 地球の気候システムとその変動

【講義内容】 地球上の気候は、過去に氷期があったり、また現在の温暖化に見られるように、たえず変化している。地球の気候の維持の仕組み、過去の変化の実態、現在人為的原因で起こっている現象、そしてその将来について説明する。

【講義計画】 基本的にはテキストを配布し、OHPによって講義を進めて行く。また、ビデオやスライドを多用し、気候形成に関与している現象について視覚的にも理解してもらう。
講義期間中一度特定テーマについてのレポートを提出してもらうとともに、最後に試験を実施する。

【評価方法】 評価は、出席数、レポートと試験の成績を基に、総合的に判断して行う。

【テキスト】 授業中に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03421	総合A	選	1～4	2	前期	小林傅司 他
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 男性と女性

授業予定表（前期毎週木 5，6 時限）

月 日	担 当 者	題 目
4 月 13 日	小 林 傅 司	科学技術における男性と女性
20 日		
27 日		
5 月 11 日	酒 井 朗	教育における男性と女性
18 日		
25 日		
6 月 1 日	長 井 長 信	法の世界における男性と女性
8 日		
15 日		
22 日	村 松 久 良 光	雇用・労働問題における男性と女性
29 日		
7 月 6 日		

【講義内容】 [化学技術における男性と女性] 小林傅司

科学技術と言うと「理系」、「理系」というイメージが湧くかもしれない。確かに科学者として名を残しているのはほとんど男性である。ここには何があるのだろうか。単なる性差別だろうか、それとも科学技術という学問は特に男性向きにできているのだろうか。講義では科学技術という制度が男性を中心として組織されているという事実を踏まえ、「科学技術の論理には確かに性があるのか」という問いを考えてみたい。

[教育における男性と女性] 酒井 朗

子育てや教育という営みに男性と女性がどのように関わっているのかを検討する。1 回目は子育てにかかわる親の側について考えてみる。子育てで強調される母性とは何か、なぜもっぱら女性だけに子育てが期待されるのか。2 回目は、学校教育を通じて男性、女性それぞれがどのように教育され意識や態度を形成していくのかを考える。3 回目は、歴史的な観点から男女の性という問題がどのように取り扱われてきたか、学校教育はそれにどう関わってきたかについて講義する。

[法の世界における男性と女性] 長井長信

男性と女性の関係に関するいくつかの法律問題を事例をあげながら考察する。具体的には、家族関係における男女（戸籍制度、婚姻・離婚など）、社会的領域における男女平等（雇用・教育など）、性的関係における男女（生殖技術の発達、性犯罪など）の問題などを取り上げる予定である。毎回、レジュメにそって講述する。

[雇用・労働問題における男性と女性] 村松久良光

1. 日本の女性は働いていないのか。
2. 男女間の賃金格差は大きいのか。
3. 多様な女性のキャリア

【評価方法】 出席及び定期試験によって行う。

【テキスト】 参考文献：金城清子『法女性学』（日本評論社、1991年）3700円

石井美智子『人工生殖の法律学』（有斐閣、1994年）1700円

小池和男『仕事の経済学』第9章、東洋経済新報社、1991

小池和男・富田安信編『職場のキャリアウーマン』東洋経済新報社、1988

脇坂明『会社型女性－昇進のネックとライフコース』同文館、1990

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03581	スポーツ科学論 1	選	1～4	2	前期	岩 見 恒 典
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 「運動とからだ」

【講義内容】 運動を身体機能としてとらえると、神経系が関与する運動を支配する働きや、筋機能による運動を発現する働きや、呼吸・循環機能による運動を持続する働きなどが考えられる。運動を持続させる能力は、一般に「持久力」といわれているが、運動に参加する筋群の多少によって、筋持久力と全身持久力に大別される。筋の収縮は神経系によって支配されるが、筋収縮によって生成された物質処理に循環系が参加するので、運動の持久機能は神経系、筋系、循環器系の働きの持久能が関与する。特に全身運動の持久能力は、多くの筋が運動に参加するために、酸素供給が運動の持続能力に大きな影響を与えるので、呼吸循環器系が主役を果たすのである。今年度は呼吸・循環機能と運動との関係を中心に整理することにした。

【講義計画】 人の生涯は、生れ、成長し、円熟期を経て老化し、いずれは死を迎えるという営みである。体力は人間の生涯における生存もしくは活動の能力であり、運動不足による体力の低下や肥満などが健康上の障害につながることは誰もが知っている情報であり、多くの人が健康の維持や体力の増進のために運動をおこなっていることは確かである。この義は関連する研究成果を引用して、身体を動かすことの意味について下記のような項目から整理する予定である。

- (1)人間の運動能力について（運動の分類・効果）
- (2)呼吸機能について（呼吸曲線・酸素摂取量）
- (3)心臓循環機能について（血液循環の仕組み）
- (4)運動と呼吸機能（最大換気量・酸素摂取量）
- (5)運動と心臓機能（最大心拍数・心拍出量）

【評価方法】 期末試験の結果に、授業中に実施するミニテストやレポートの成績を加えて評価する。

【テキスト】 使用しない。必要に応じて資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03582 03584	スポーツ科学論 2・4	選	1～4	各2	前期 後期	寺 田 邦 昭
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 スポーツと人間

【講義内容】 スポーツは長い道のりを日々と共に歩んで来の中で、様々な影響を我々に与えてきた。また、大衆化した現代では、我々の日常生活に深く関わりを持つようになってきた。本講ではそれらスポーツと人間の関係について、人文・社会及び自然科学的側面から解説を試みる。

【講義計画】 第Ⅰ週～第Ⅴ週（人文科学的アプローチ）
Ⅰ．スポーツとは（プロ野球はスポーツと言えるかを命題として） Ⅱ．スポーツの発祥（原始～古代のスポーツを振り返る。） Ⅲ．近代スポーツの誕生（ヨーロッパ中世～近代のスポーツ事情） Ⅳ．スポーツと国民性（日・米・英のスポーツを比較する） Ⅴ．近代オリンピック（誕生から100年を迎える）
第Ⅵ週～第Ⅸ週（社会科学的アプローチ）
Ⅵ．アマチュアリズムの推移（その発生から崩壊の危機に至るまで） Ⅶ．スポーツと政治（スポーツによる国威発揚や政治的利用） Ⅷ．冠大会の抱える諸問題（スポーツの商業化の実態とその功罪） Ⅸ．スポーツマンシップの危機（ラフプレイやドーピングを手掛かりとして）
第Ⅹ週～第Ⅺ週（自然科学的アプローチ）
Ⅹ．スポーツと運動神経（いわゆる運動音痴は存在するか？） Ⅺ．スポーツ・トレーニング法とトレーナビリティ（駄馬は鞭うてども駄馬か） Ⅻ．スポーツと健康（省力化社会を行く抜くために） Ⅼ．スポーツと障害（過ぎたるは……） Ⅽ．スポーツとあがり（実力を100%発揮するためには）

【評価方法】 筆記試験により評価する。

【テキスト】 授業よう資料はプリントして配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03583	スポーツ科学論 3	選	1～4	2	前期	中 路 恭 平
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 人々の運動やスポーツの行い方は、その時代における社会的な背景と大いに関係があるといえる。本講義では、人類がこれまでどのように運動やスポーツと関わってきたか古代から中世、近代へと歴史的に概観し、そのうえで現代社会における運動・スポーツがもつ意味や問題点などを探り、その生活化の方策を検討する。また、現代社会においては、運動不足、栄養過多、ストレスが健康を疎外する三大要因といわれる。後半では、身体運動と健康・体力とのつながりについて、特に呼吸循環機能、筋機能に視点を置き、運動が人体に及ぼす効果について解説するとともに、適切な運動の行い方を検討する。

【講義計画】 講義の流れは、おおよそ下記の通りである。

1. スポーツの歴史
2. 近代スポーツの成立とその功罪
3. 競技スポーツと大衆スポーツ
4. スポーツの生活化
5. 健康・体力と運動
6. トレーニングと運動処方

【評価方法】 講義日程の3分の2以上の出席を要件とする。評価は、筆記試験とレポートの併用で行う予定である。

【テキスト】 指定テキストはない。参考文献は講義内で紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03591	健康科学論 1	選	1～4	2	後期	岩 見 恒 典
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「個人および集団の健康について」

【講義内容】 人間がその生涯の各年齢段階において、活力に満ちた明るく心豊かな生活を実現できることは、生きがいのある人生を送るうえでの基盤であり、健康の保持増進やスポーツ実践が深く関連していることは誰もが認めることであろう。健康で豊かな社会生活を営むためには、個々人が健康や体力に関する知識を深め、自己の健康や体力の状態を知り、生涯を通して実践することが大切である。今年度の講義は「健康」という漠然とした概念を少しでも整理することになればと、個人の問題としての健康と、集団としての問題についてまとめる予定である。

【講義計画】 われわれが健康であるという実感を持って生活できるのは、その人が必要とする生活を満足におこない得ているということであろう。人間の生活は、時代・地域・性・年齢・職業などによって異なり、それぞれに応じた健康に対する考え方があることはいうまでもない。前半は個人の問題として、「共通認識としての健康観」「身体的健康・精神的健康・社会的健康」「健康認識の変遷」「健康の概念・定義・健康指標」などについて概説し、後半は、国民生活基礎調査や国勢調査などの統計資料を活用して、集団としての健康を考えることにしたい。

【評価方法】 期末試験の結果に、授業中に実施するミニテストやレポートの成績を加えて評価する。

【テキスト】 使用しない。必要に応じて資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03592	健康科学論 2	選	1～4	2	後期	三 浦 修 史
他の科目との関連					他学科履修	重複履修 不可

【副 題】 現代人の健康維持にはたす身体運動の役割

【講義内容】 今日、家庭・学校・職場の環境は厳しさを増し、多くの人々が外界からストレスにさらされている。その結果、多くの半健康状態の人が存在するといわれている。そこで本講義は、変動する現代社会がもたらすストレスとそれに反応する現代人の諸問題について具体的に考えるとともに、ストレスマネジメントにはたす身体運動の効果についても学習する。

【講義計画】 最初に、我々をとりまく環境に存在するリスクファクターを理解し、その中から今後特に注目しなければならない心理的因子について、いろいろな方面から講義を進めていく。特に、職場や家庭、学校において、今日、問題となっている事件との関連について話を進めていきたい。後半は、身近に見られるストレスの中から、我々に最も関連する薬物について具体的な例を示し理解を深める。

【評価方法】 期末に筆記試験を行い評価する。

【テキスト】 担当者が資料を提供する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03611	スポーツ科学演習 I（基礎身体運動学）	選	1～4	2	前期	三 浦 修 史
他の科目との関連					他学科履修	重複履修 不可

【副 題】 基礎身体運動学（身体の動きを科学する）

【講義内容】 ほとんどのスポーツの演技は自分の身体を動かすか、あるいは外部の物体に運動を与えるかによってそれが成立している。したがって、動きは、全てのスポーツ技術にとって基本的なものといえる。そして、これらの動きも基本的科学的法則や原理に支配されていることにスポーツの経験者なら気がつくことであろう。授業では、これらの動きの基本法則や原理を学ぶと同時に、高速ビデオ動作解析装置を使用して実験実習を行う。

【講義計画】 担当者が用意する資料にもとづいて、最初に、身体運動の原点である、運動器官（筋、骨）について学ぶとともに、運動する場合に、人体に見られる、力学的な作用を知る。次に、毎秒200 コマ以上の速度で撮影できるビデオ装置の取り扱い方を習得し、担当者が提示したテーマにもとづき撮影を行う。この記録された動作を1/1000秒単位の動きとして解析できるように、コンピューターの操作をみにつける。そして、解析したデータを提出できるようにまとめていく。

【評価方法】 担当者が指示した身体動作を高速ビデオでとらえ、コンピューターによって解析した結果を提出する。

【テキスト】 担当者が資料を提供する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03612	スポーツ科学演習 I（運動学習の心理）	選	1～4	2	前期	寺 田 邦 昭
他の科目との関連					他学科履修	重複履修 不可

【副 題】 運動学習の心理

【講義内容】 運動学習における視知覚や運動感覚の役割。練習法と学習効果、フィードバック情報の利用、学習効果の転移、その他運動学習に関わりの深い心理学的事象についての実験や測定を通して、運動技術の習得に関して科学的分析を試みる。また、実習が中心となる関係で、受講者数は30名程度を上限とする。

【講義計画】 前半の授業では、運動学習に関わる心理学的諸問題について解説すると共に、基礎実験を行うための器具・備品の扱い方や、結果の処理法について概説する。次いで、2～3名のグループを編成し、①練習法の差異が学習効果に及ぼす影響 ②結果の知識の有無と学習効果の関係 ③練習法の違いが習得技術の保持に与える影響 ④練習効果の転移 ⑤筋力発揮と心理的条件 ⑥パフォーマンスと競争効果 ⑦疲労の運動パフォーマンスに与える影響 ⑧体協競技意欲検査による大学運動部のやる気、などの中から適したテーマを選び、研究計画を策定する。後半の授業時間は、研究計画の遂行（グループで実施）及び報告書の作成（各個人毎）・発表に充てる。尚、被験者は本演習の受講者またはクラブ部員に依頼する。

【評価方法】 出席状況・活動状況・報告書の有無などにより総合的に評価する。

【テキスト】 授業用資料はプリントして配布する。
参考資料 体育心理学研究会編「体育心理学実験演習概説」（大修館書店）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03621	スポーツ科学演習Ⅱ（応用身体運動学）	選	1～4	2	後期	三 浦 修 史
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 応用身体運動学（選手のためにスポーツを科学する）

【講義内容】 スポーツ演技の多くは、単に身体や身体各部分が運動するという以上のものを含んでいる。たとえば、ボール、バット、ラケット、クラブなどの用具を操作するという場合、単に機械的動きというものではない。それらの用具をどのように操作するかということが結果に影響をおよぼすのである。授業では、個人が興味を持つスポーツ技術を対象に合理的な動きとはどのようなものかを究明する。よって、スポーツ活動を行っている学生の受講を希望する。ただし、身体運動学、基礎身体運動学の履修を終えた者にかぎる。

【講義計画】 基礎身体運動学ですでに習得した。高速ビデオ撮影技術と動作解析装置の操作技術を最大限に生かして、学生個人が積極的に実験に取り組むことを目標とした授業で、最初に、実験計画を提出してもらう。この計画をもとに、研究をすすめる、結果を図表にまとめ、それについてのレポートを作成する。

【評価方法】 最初に作成した計画にしたがって、率先して研究に取り組み、分析した結果をレポートにして提出する。

【テキスト】 担当者が資料を提供する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03801 ～ 03810	情報リテラシー	選	1～4	2	前期 後期	真 野 芳 久 村 本 正 生 山 田 進 満 野 呂 昌 満
他の科目との関連	特になし			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 世の中、まさにマルチメディア時代である。すばらしい能力を持ったパーソナルコンピュータを各人が所有できる時代である。このコンピュータの持つ能力を我々自身の力とし、それを土台として人間の創造性を高めようというのがコンピュータリテラシーの基本であろう。

この授業では、コンピュータに関する基礎技術を学習する。基礎技術であるので身につくまで反復練習が必要である。授業ではその手ほどきするだけであり、身につくつかつかないかはあなた方の意欲と熱意である。情報システムの最も基本的な概念の理解と基礎的なコンピュータ操作法の習得